

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第19次

志羅山遺跡第119次

白山社遺跡第11次

毛越寺跡第20次

無量光院跡第48次

2023

令和5年3月

平泉町教育委員会

平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園 II 遺跡第19次

志羅山遺跡第119次

白山社遺跡第11次

毛越寺跡第20次

無量光院跡第48次



白山社遺跡第11次全景（南西から）



毛越寺跡20次 20-1調査区（北西から）



毛越寺跡第20次 20-2北全景（西から）



毛越寺跡20次 20-2西側全景（北から）

序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶴山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧觀自在王院庭園・おくのはそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。また、このほかに101箇所を数える遺跡や埋蔵文化財を有しています。これらは地域の風土や歴史が生み出した貴重な文化遺産であり、本町の歴史・文化を考える上で重要な資料であります。また、これらの歴史資料は本町のみならず県民・国民的財産であり、その保存・活用の重要性はいうまでもありません。

本報告書は令和3年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査成果を収録したものです。同事業では祇園II遺跡、志羅山遺跡、白山社遺跡、毛越寺跡、無量光院跡の5遺跡・5地点の調査を行っております。

特に無量光院跡第48次調査では、12世紀の溝から瓦が多く見つかりました。この瓦は無量光院跡第40次調査で見つかった瓦に類似しています。この調査では無量光院跡以前の石敷が見つかっており、それに伴う建物に使用された可能性が想定され、平泉の都市空間を考える上で貴重な資料を得ることができました。

調査データは広く活用され、今後の考古学研究・文化財の愛護・理解の一助になれば幸いです。

最後に、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に深く感謝申し上げます。

令和5年3月

平泉町教育委員会

教育長 吉野新平

例　　言

- 本書は令和3年度の国庫補助事業により実施した平泉遺跡群発掘調査の報告である。
- 令和3年度の発掘調査は、祇園II遺跡、志羅山遺跡、白山社遺跡、毛越寺跡、無量光院跡の5遺跡・5地点について行った。野外調査期間は令和3年4月7日から令和3年11月30日、室内整理期間は令和4年3月31日までである。
- 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

(1) 令和3年度

平泉町教育委員会

教　育　長　　岩　潤　　実（～令和3年9月30日）

吉　野　新　平（令和3年10月1日～）

平泉文化遺産センター

所　　長	千　葉　登	主　　事	鈴　木　理　世
館　長　補　佐	島　原　弘　征	主　　任	萩　山　義　浩
主任主査文化財調査員	菅　原　計　二	補　助　員（臨時）	二階堂　里　絵
主任主査文化財調査員	鈴　木　江　利　子	補　助　員（臨時）	佐　藤　昌　弘
文化財調査員	鈴　木　博　之	補　助　員（臨時）	熊　谷　明　美
主　　任	佐々木　成　淳	補　助　員（臨時）	菊　地　道　子

(2) 令和4年度

平泉町教育委員会

教　育　長　　吉　野　新　平

平泉文化遺産センター

館　　長	高　橋　国　博	主　　任	千　葉　徹
館　長　補　佐	島　原　弘　征	主任文化財調査員	菅　原　計　二
主任主査文化財調査員	鈴　木　江　利　子	補　助　員（臨時）	二階堂　里　絵
文化財調査員	鈴　木　博　之	補　助　員（臨時）	佐　藤　昌　弘
主　　任	佐々木　成　淳	補　助　員（臨時）	熊　谷　明　美
主　　任	鈴　木　理　世	補　助　員（臨時）	菊　地　道　子

- 発掘調査・室内整理は菅原・鈴木江利子・島原が担当し、佐藤・菊地の協力を得た。事務は鈴木理世が担当した。
- 本書の執筆は、I - 2・3を菅原計二、I - 1・4・5を鈴木江利子、それ以外を島原弘征が担当した。
- 調査の基準点は、平文基準点（平面直角座標X系に準拠）をもとに調査員が打設した。なお、測量成果は過去の図面と合成できるよう測地2000に変換して使用した。
- 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄 2001）によった。
- 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会、平泉町HP等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。
- 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った。（順不同・敬称略）
文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
- 発掘調査参加者（順不同・敬称略）
阿部俊春、石川毅覚、石川誠、及川勝、小野寺啓悦、小野寺富子、春日谷初男、川崎寛、熊谷君子、小松代方代、佐々木政記、佐々木利雄、佐々木敏治、佐々木直久、佐藤綾男、佐藤歌奈子、佐藤潔、佐藤國雄、佐藤彦悦、佐藤參、佐藤正志、菅原久美子、菅原聰、菅原まつ子、菅原有利、鈴木健一、高橋喜一、高橋純一、瀧澤昌治、東橋正博、千條えみこ、千葉一郎、千葉勝也、千葉京子、千葉景姫、千葉セツ子、千葉忠枝、千葉晃久、千葉ナカ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉みよ子、千葉陽、千葉義男、鳥畠恵美子、那須野繁男、橋躋義彦、藤原榮治、丸山聰子、吉田琴子、矢崎靜香

目 次

序

例言

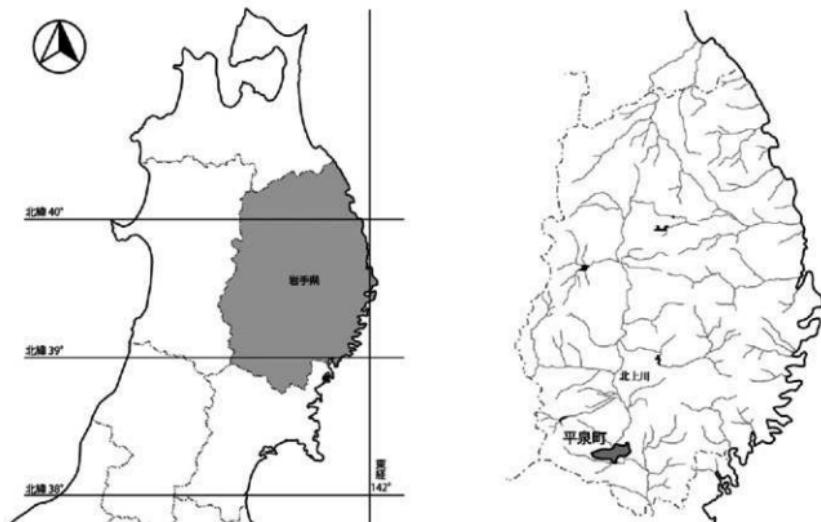
目次

抄録

I 平泉遺跡群発掘調査報告

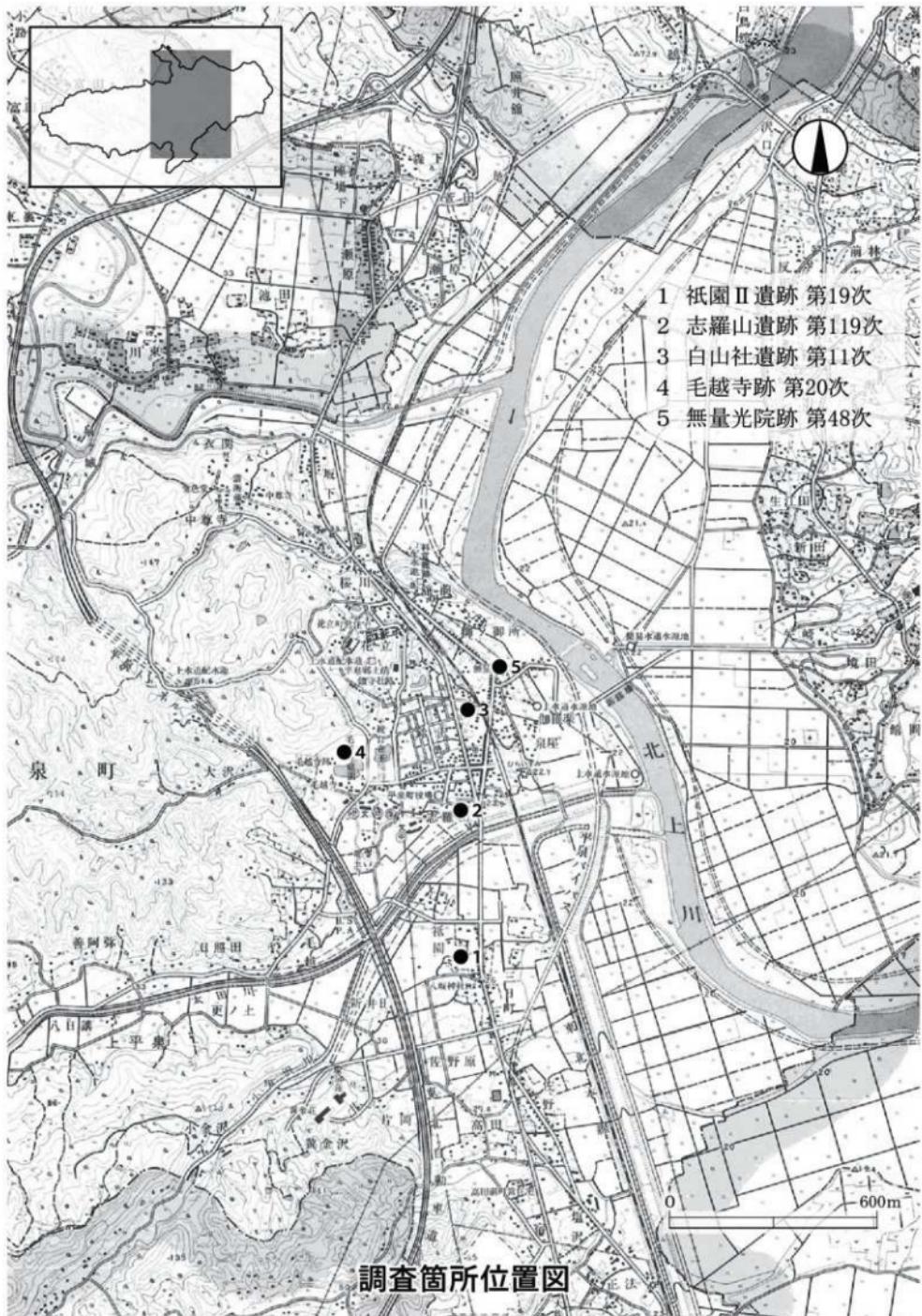
1 祇園 II 遺跡第19次	2
2 志羅山遺跡第119次	8
3 白山社遺跡第11次	18
4 毛越寺跡第20次	30
5 無量光院跡第48次	50

II 工事立会



平泉町の位置

報告書抄録



祇園II遺跡第19次発掘調査

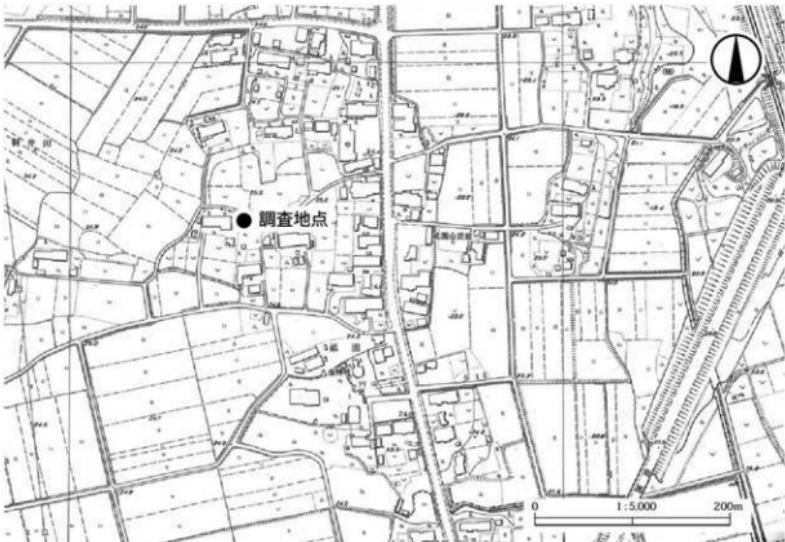
1 調査要項

地 点 平泉町平泉字祇園15-1
 調査面積 100m²
 調査期間 令和3年4月7日～4月23日
 原 因 住宅建築
 調査担当 鈴木江利子

2 遺跡の位置と概要

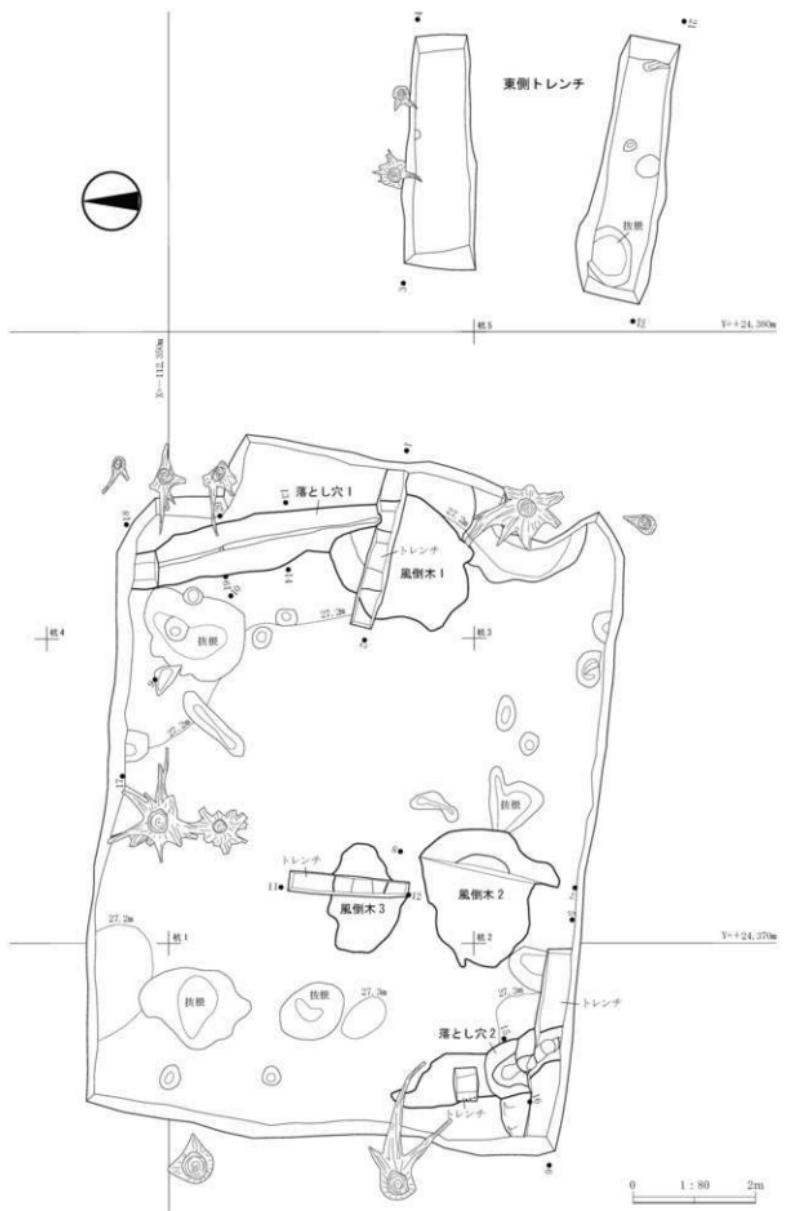
祇園II遺跡には国指定史跡毛越寺の飛地である八坂神社が所在する。八坂神社は鎌倉時代の歴史書「吾妻鑑」に南方鎮守と記された祇園社と考えられる箇所である。周辺の過去の発掘調査では、八坂神社の参道に関係すると思われる東西方向の道路側溝や、四面に庇を持つ大型の建物跡など、12世紀と考えられる遺構を検出している。また奥州道中に沿った地域であるため近世と思われる建物の跡も見つかっている。

19次調査では、地形的には周辺よりもやや高い位置であることで、良好な状態の遺構が検出されると思われた。しかし12世紀と思われる遺構や、近世の建物跡も検出していない。直前まで杉の木が道路沿いに植えられて、調査区を含む広い範囲は屋敷林としていた様子である。今回調査した範囲には伐採、抜根した跡が数か所あり、人為的ばかりではなく、おそらく風などにより自然の影響も受けて倒された跡が検出している。同じような状態は周辺にも広がっている可能性がある。今調査では、正確な年代は不明であるが縄文から古代と思われる落とし穴の跡を2箇所から検出した。



第1図 調査地点位置図 (1/5,000)

祇園
二
19



第2図 全体平面図

3 調査成果

調査区は住宅とカーポートを建てる予定で、西側の住宅予定地は全体を、東側のカーポート位置は2本のトレンチで対応した。表土から地山の遺構面までの深さは25~40cm程度で、検出標高は27.2~27.3mである。旧表土の上に腐葉土状の表土が堆積している。また樹木の根が張った影響から遺構の輪郭が確認しにくい状況であった。東側のトレンチでは拔根跡と、窪みが認められた。西側では落とし穴2箇所、倒木跡3か所、拔根跡3か所を確認した。拔根は今回の伐採時に倒したと思われ、周辺や埋土が柔らかい状態であった。

(1) 検出遺構

落とし穴1: 調査区東側に南北方向に長く検出した。検出長4.5m、幅は60~95cmである。深さは32~45cmで、底が細くなった逆三角形の断面を呈する。直線状に長い事から溝の可能性を考えたが、水の流れた痕跡が認められないことや、形状から落とし穴と判断した。北の調査区外に続き、南は倒木跡に切られている。

落とし穴2: 南東端から3.5m程北西に延びているが、北に1.5m程でかなり浅くなっている。埋土の状態が落とし穴1と似ることで同等の遺構と判断した。検出が浅い状態であり、上層は削平されている可能性がある。幅は0.9~1.0mで、深さは南の一番深い箇所で37cmである。南側調査区外に続いている。

倒木跡: 倒木跡1は平面形が径2.1×2.3mの不整形で、深さは47cmである。倒木跡2は径1.55×2.3m、深さは50cmである。倒木跡3は径が1.0×1.8mで、深さは34cmである。全て中央は硬くしまった地山起源の土で、周辺は締まりの無い土で覆われている。この状態から近世の可能性がある。

(2) 出土遺物

かわらけ小片と須恵器の壺の破片を1点ずつ出土した。かわらけは道路沿いの伐根跡からで、近現代の磁器やガラス片なども出土している。他の伐根跡からも現代の皿などが出土した。須恵器は調査区南で表面採集したものである。現代の皿や茶碗の破片も表面や表土中から出土している。

4 まとめ

調査結果としては遺構、遺物共に少なく、倒木跡や拔根の跡が目立った。

須恵器片は表土からの採取で、遺構は伴っていないが、周辺には遺構の残る可能性を示している。近年は住宅の建築が増えてきている事から、周辺の調査は注意し継続する必要がある。

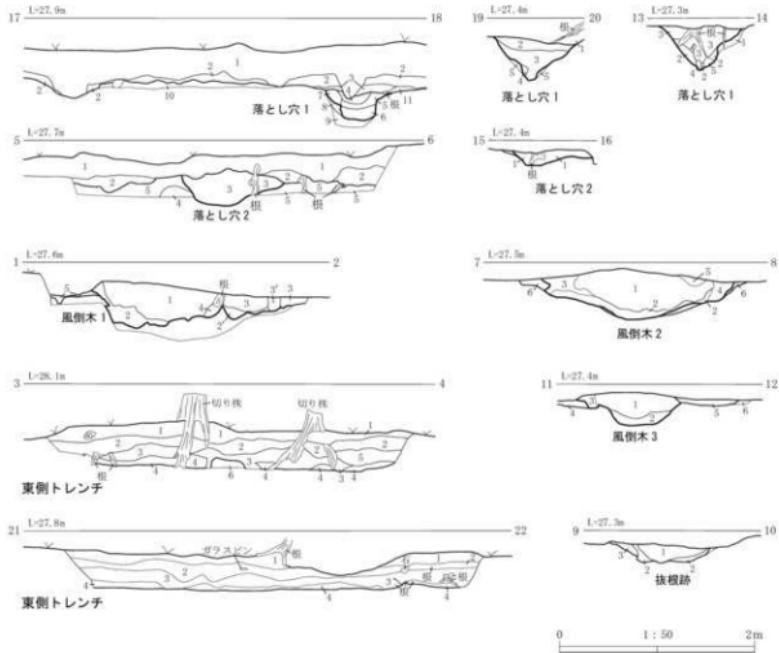
須恵器



表2 須恵器観察表

No	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No
1	重機 表採	壺	肩部	平安	内外面タキ	I

第3図 出土遺物



17-18

- 1 10YR16.4(3) 黄褐色シルト 根多量 しまりなし (表土)
- 2 10YR14.4(2.5) 黄褐色シルト しまりやや (地表)
- 3 10YR5.6(2.5) 黄褐色シルト しまりややや有
- 4 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色シルトブロック少量混入 しまりややや有
- 5 10YR5.6(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色シルトブロック少量混入 (根鉢)
- 6 10YR5.6(2.5) 黄褐色シルト 2.5YR7.0明黄褐色シルトブロック少量混入 (根鉢)
- 7 10YR6.6明黄褐色シルト (地山)
- 8 2.5YR7.0明黄褐色粘土 (地山)
- 9 2.5YR7.0明黄褐色シルト (地山)
- 10 10YR6.6明黄褐色シルト 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト混入 根入る (地山隙縫岩)
- 11 10YR5.6(2.5) 黄褐色シルト (地山)

19-20

- 1 10YR6.6(2.5) 黄褐色シルト (根鉢)
- 2 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 固じこまる (落とし穴)
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 2.5YR7.0明黄褐色粘土ブロック少量混入 (落とし穴)
- 4 10YR6.6明黄褐色シルト 10YR5.6明黄褐色シルトブロック少量混入 (根鉢)
- 5 10YR6.6明黄褐色シルト (地山)

13-14

- 1 10YR6.6(2.5) 黄褐色粘土 (地山)
- 2 10YR6.6(2.5) 黄褐色粘土 10YR6.6明黄褐色粘土混入
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色粘土 硬化物少量含む
- 4 10YR4.4(2.5) 黄褐色粘土 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック少量混入
- 5 10YR6.6(2.5) 黄褐色粘土 数分量含む (地山)

5-6

- 1 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 根多量 ぐらぐら (表土)
- 2 10YR4.4(2.5) 黄褐色粘土シルト 根入る
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 2.5YR7.0明黄褐色粘土ブロック少量混入 硬化物微量含む
- 4 10YR4.4(2.5) 黄褐色粘土
- 5 10YR6.6明黄褐色粘土

15-16

- 1 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色シルトブロック混入 細かい根入る
- 2-1 10YR6.6明黄褐色粘土 2.5YR7.0明黄褐色粘土ブロック混入 根鉢有
- 2-2 10YR6.6明黄褐色粘土 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック少量混入
- 2-3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 2.5YR7.0明黄褐色粘土ブロック混入 2層上りしめる
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 根鉢あり
- 3-1 10YR4.4(2.5) 黄褐色粘土 中
- 4 2.5YR5.6(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック混入 (根鉢)
- 5 10YR6.6明黄褐色シルト

7-8

- 1 10YR6.6(2.5) 黄褐色粘土 位干に10YR7.0明黄褐色粘土ブロック多量混入
- 2 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック少量混入 しまりなし
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック少量混入 (根鉢)
- 4 10YR6.6明黄褐色シルト 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト混入 (根鉢)
- 5 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト (根鉢)
- 6 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト (自然堆積層)

11-12

- 1 10YR6.6(2.5) 黄褐色粘土 下段に2.5YR7.0明黄褐色粘土ブロック 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト混入
- 2 10YR6.6(2.5) 黄褐色粘土 上段に2.5YR7.0明黄褐色粘土ブロック
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 根多量 しまりなし
- 4 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 根多量 (根鉢)
- 5 10YR6.6明黄褐色粘土 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック混入 根入る
- 6 10YR6.6明黄褐色粘土 (地山)

9-10

- 1 10YR6.6明黄褐色粘土 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト混入 しまりなし
- 2 10YR6.6明黄褐色粘土 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック混入 根入る しまりなし
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト ささら (表土由来)

3-4

- 1 10YR2.5(2) 黄褐色シルト 根多量 (高量)
- 2 10YR2.5(2) 黑褐色シルト 根多量 しまりなし
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト
- 4 10YR4.4(2.5) 黄褐色粘土
- 5 10YR6.6(2.5) 黄褐色シルト 10YR6.6明黄褐色粘土ブロック混入 しまりなし
- 6 10YR6.6明黄褐色粘土 根多量 (地山)

21-22

- 1 10YR6.6(2.5) 黄褐色シルト 根多量 ぐらぐら (表土)
- 2 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 根多量
- 3 10YR4.4(2.5) 黄褐色シルト 硬化物少量含む
- 4 10YR6.6明黄褐色粘土

第4図 断面図



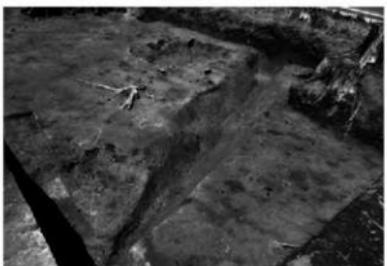
調査前の状況（北西から）



落とし穴2（北から）



落とし穴1（南から）



落とし穴1（南東から）



落とし穴1（北西から）

写真図版1



風倒木3断面（東から）



風倒木2断面（東から）



調査区全景（東から）



調査区西側（南東から）



調査区全景（北西から）



東側トレンチ（南西から）

写真図版2

須恵器



写真図版3 出土遺物

志羅山遺跡第119次発掘調査

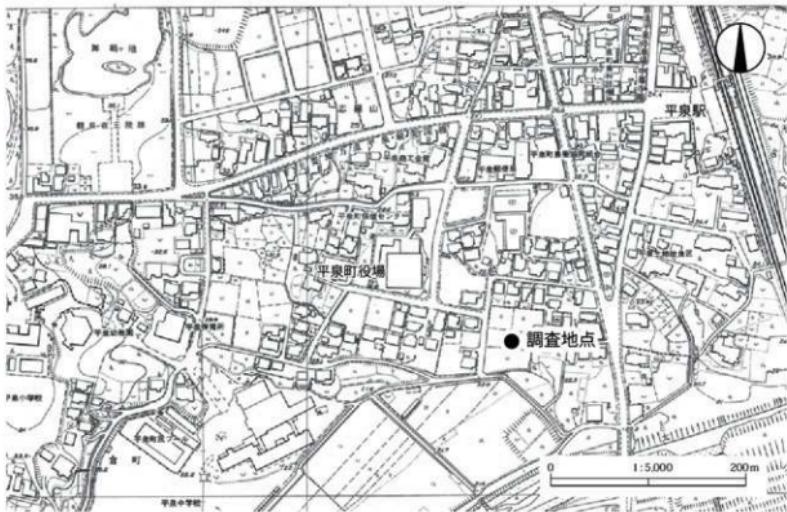
1 調査要項

地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字36番5
 調査面積 120m²
 調査期間 令和3年8月24日～9月25日
 原 因 住宅新築
 調査担当 菅原計二

2 位置と概要

調査地点は平泉町役場の南東約100mの住宅地の一画に当たる。地形は北上川支流太田川左岸の沖積台地の縁辺で、昭和40年代以前は南に下る緩斜面と沢地形の等高線に沿った小規模な水田だったが、区画整理により長方形の区画に拡大された。その後、周辺部の宅地化が進み、平成10年代以降に盛土造成が行われて現在に至る。調査は住宅と南側の擁壁予定地に逆T字形のトレンチを設定し、重機で客土や盛土、旧水田等を掘削して地山面まで到達した後、作業員の手掘りによって遺構を検出した。標高は北西側が25.59m、北東側25.58m、南西側の水田面が23.58mで、当調査区と南側の水田とは約2mの高低差がある。掘削したトレンチ幅は地山検出面で東西6m、南北15mを測る。

調査の結果、トレンチ北西側と北壁から柱穴18個、トレンチ南側で溝跡1条を検出した。遺構検出面の標高は北西側平坦面が24.48m、中段が23.96m、南側平坦面が23.20～23.43mでいずれも開田や区画整理によって地山が削平されている。出土した遺物の量は少ないが、柱穴2からほぼ完形の手づくねかわらけ、I号溝から12世紀の渥美産刻画文陶器の破片や近世以降の煙管の雁首などが出土した。



第1図 位置図 (1/5,000)

3 調査結果

遺構：柱穴18個、溝跡1条

遺物：かわらけ313片(5.1kg)、国産陶器19、中国産白磁1、瓦1、金属製品(鉄釘1、煙管1)
近現代陶器少量、その他(砥石・近現代陶磁器・ガラス等)

(1) [土層] (第5図・写真図版2)

土層は表土から地山まで大きく6層(I～VI)に分けられる。Iは表土、IIは客土や地山と旧水田の切土盛土、IIIは水田耕作土、IVは水田床土で、地山を切土した際に生じた窪みを平らに敷き均した部分。Vは砂質堆積土主体で、上位に地山ブロックが混入する部分は人為整地の可能性あるが境界不明瞭。VIは地山である。地山は粘土からシルト主体で、南側平坦面を深掘りした地山深掘りトレーニチでは砂質の層位が認められた。

表1 土層

層	内 容(層序)	土色・土質
I	表土 客土・盛土(1・1-1~1-4)	10YR4/3にぶい黄褐シルト 客土や碎石等
II	客土 地山の切土盛土(2・2-1~2-17)	砂・碎石と地山と水田耕作土の切土盛土 一部にコンクリート等混入
III	水田耕作土(3・3-1~3-4)	2.5Y5/3黄褐シルト~2.5Y4/1黄灰シルト 酸化鉄分を少量含む
IV	水田床土(4・4-1~4-2)	2.5Y6/2暗灰黄シルト・浅黃地山ブロック粘土 地山直上の敷き均し
V	砂質土 自然堆積 上位整地か(5)	2.5Y6/4にぶい黄砂・砂質シルト自然堆積土 上位に地山ブロック混入
VI	地山(6)	7.5GY5/1緑灰粘土~シルト 2.5GY6/1オーラープ灰砂質 自然堆積土

(2) [遺構] (第3～6図・表2・写真図版3～4)

遺構は北西側平坦面と中段から柱穴18個、南側平坦面の南端で溝跡1条を検出した。建物跡として確認できた柱穴の展開は無い。

柱穴 柱穴は北西側平坦面で14個、切土された地山の中段で3個、北壁で1個を検出した。平面形は直径9～40cm大の円もしくは楕円形で、深さは検出面から6～54cmを測る。当初、遺構として柱穴9・10と捉えた円形プランは人為的な掘り込みとは認められず、これを欠番とした。検出した柱穴の埋土はいずれもしまりがあり、掘方は浅黄・にぶい黄・灰オーラープ地山ブロックに灰黄褐シルトが少量混じるものが多く、柱痕跡は暗灰黄もしくは灰黄褐シルト主体で地山ブロックが少量混じる様相である。主な出土遺物としては柱穴2からほぼ完形の手づくねかわらけが出土した。内外面に油煙らしき黒褐色の痕跡が残る。かわらけの年代は12世紀後半で、当地点で検出した柱穴の年代は12世紀以降と推定した。

溝跡

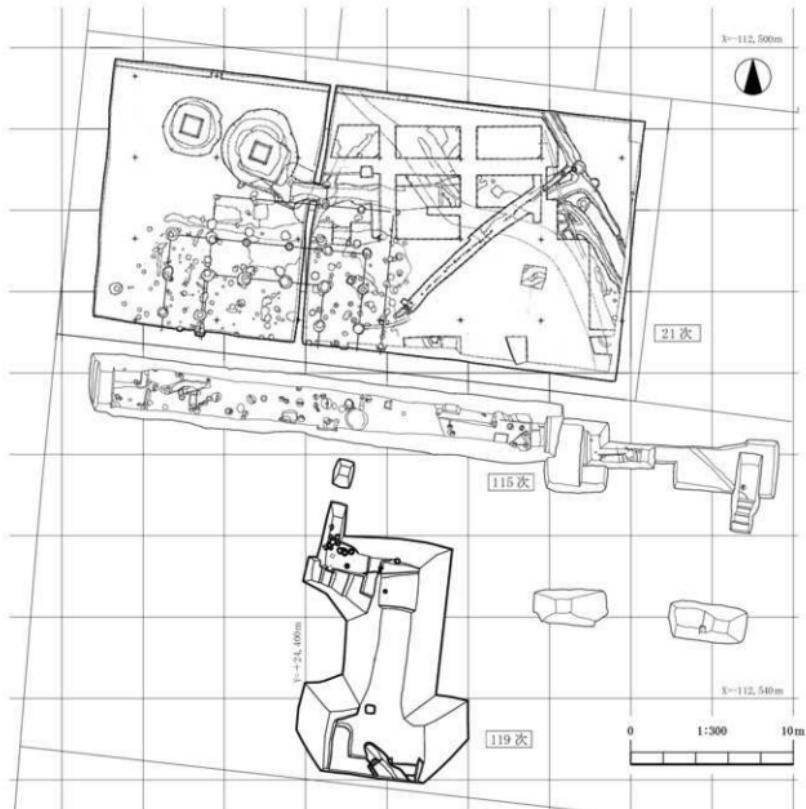
1号溝 調査区南端で検出した。N40°Wの軸線で北西～南東方向に伸び、検出長3.40m、溝幅1.40m、断面は逆台形で深さ30cmを測る。底面標高は北西23.17m、南東23.06mで西から東に下る。溝の北西側は削平を受けて失われ延長は不明だが、南東側は調査区域外に続く。埋土は灰黄褐シルト主体で埋土の下位に3～25cm大の円礫が多く入る。出土遺物は12世紀のかわらけ片や渥美産刻画文壺を含む国産陶器片4(常滑1・渥美3)、煙管の雁首1点が出土した。埋土と遺物の様相から近世以降の暗渠と思われる。

(3) [遺物] (第7図・表4・5・写真図版5)

本調査区から、かわらけ333片(0.8kg)、国産陶器19点(常滑8・渥美10・瓷器系1)、中国産白磁1点、瓦1点、金属製品(鉄釘1、煙管1)、その他(砥石・近現代陶器・雑物)が出土した。第7図1と2はかわらけである。いずれも手づくねで年代は12世紀後半である。3～21は国産陶器で12世紀の壺の破片が多い。4は渥美産刻画文壺の肩部破片で外面に線刻を施す。13は渥美産山茶碗、21は中世の瓷器系鉢で産地は宮城県北産とみられる。22は中国産白磁壺の小片、23は瓦の小片、24は煙管の雁首で近世以降とみられる。25は鉄釘で年代は不明である。

4まとめ

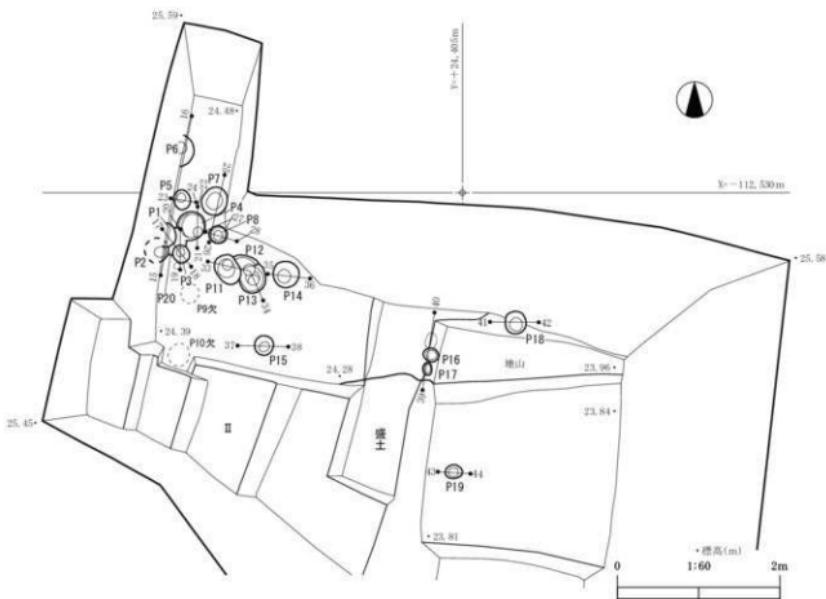
本調査区は太田川左岸の沖積台地南辺に当たる。調査の結果、柱穴18個、溝跡1条を検出し、柱穴2から手づくねかわらけ、1号溝から渥美産刻画文陶器や煙管の雁首や多数の円碟が出土した。当地は水田に厚く新しい盛土が被う地点のトレンチ調査で、切土された地山面で柱穴が集中しているのを確認した。これらの柱穴は新旧関係をもって重なり、比較的小規模であったが、しまりがある埋土からかわらけが出土している様相から、12世紀の屋敷地に伴う建物跡が重複していたものと考えられる。南側で検出した溝跡は近世以降の暗渠と推定した。本調査区と近隣の調査履歴（第2図）をみると、北側の21次調査区（平成5年度・1993）で12世紀中葉から後半にかけて、調査区の北側中央から南東方向に下る自然沢を人為的に切土盛土した整地で1m以上の厚さで埋め立てる地業を行っており、五間四面規模の大型掘立柱建物跡や木枠が残る井戸跡・土坑などが重複する形で検出している。また115次調査区（平成29年度・2017）では、厚い整地を掘り込む柱穴や土坑・溝跡を検出した。このように当地点の近隣では、南の太田川に向かって下る斜面地や沢地形に大掛かりな地業を行うことにより、屋敷地の基盤となる平坦地を確保しながら施設の充実を図っていたことが分かった。



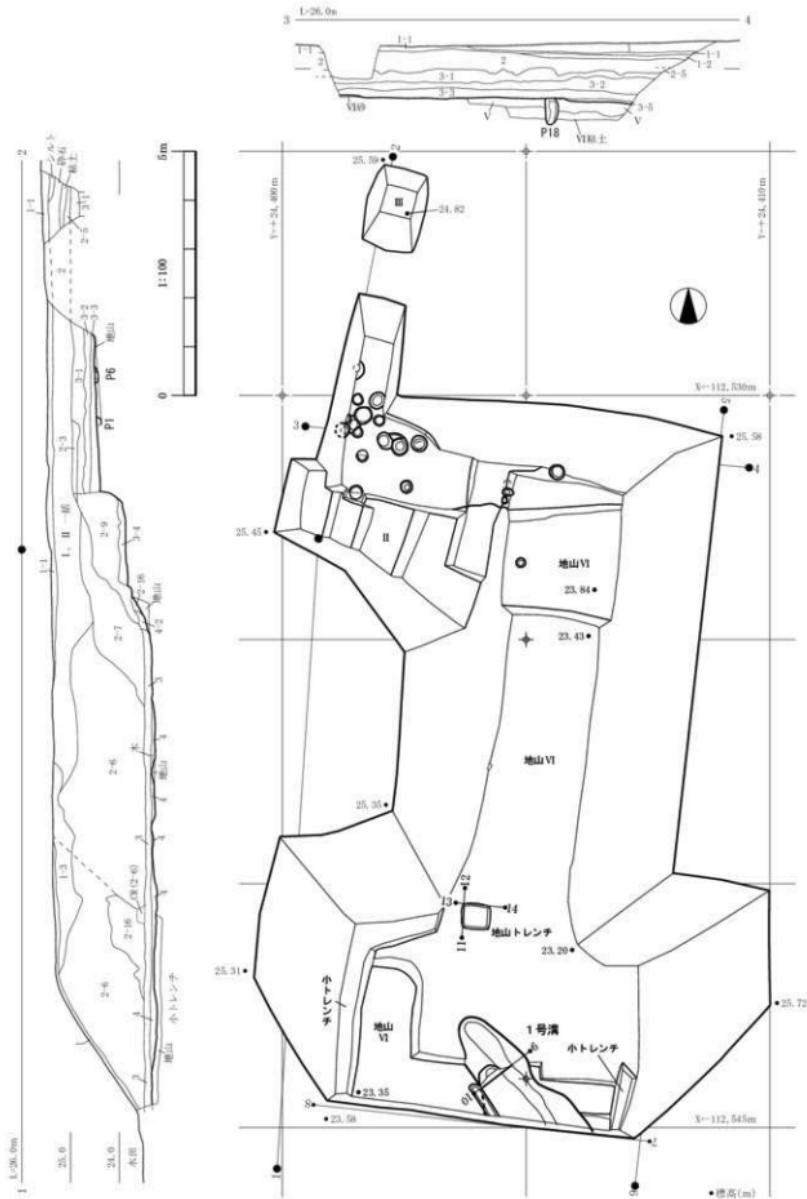
第2図 志羅山遺跡第119次 周辺調査履歴 (1/300)

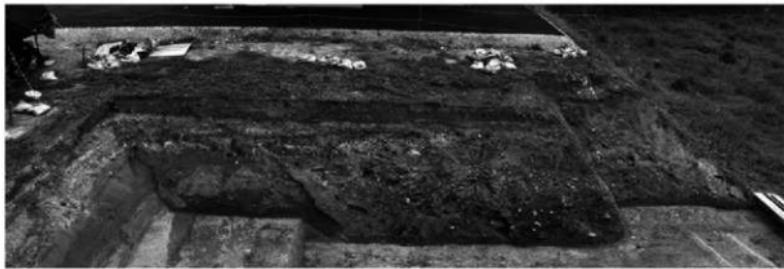
志羅山
119

写真図版1 調査区全体（南から）

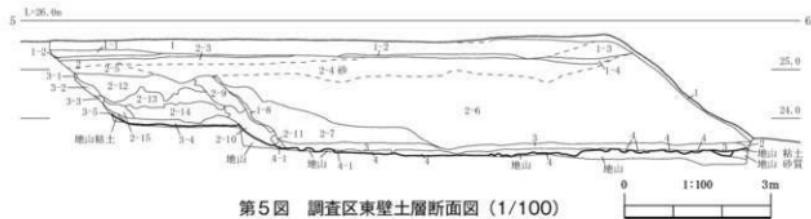


第3図 トレンチ北側 柱穴平面図 (1/60)



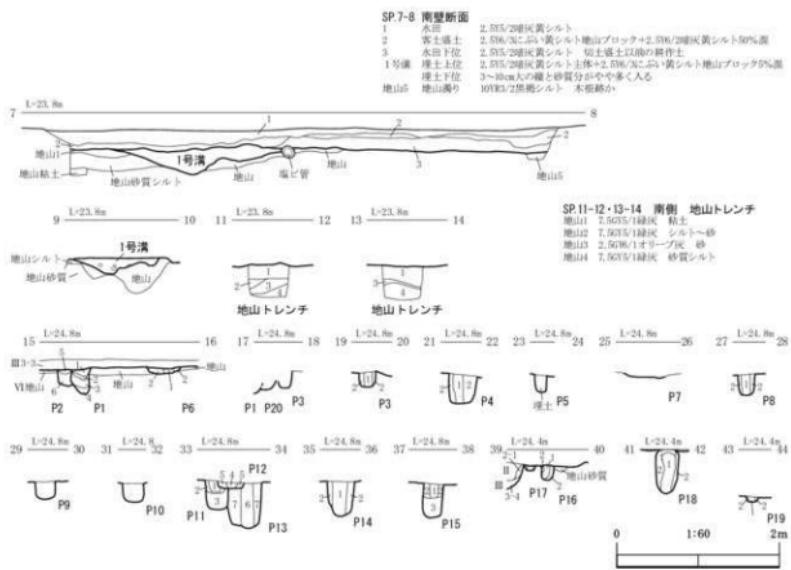


写真図版2 調査区東壁土層断面（西から）



第5図 調査区東壁土層断面図 (1/100)

SP-1・2 西壁	SP-3・4 北壁	SP-5・6 東壁
I 客土・植生・備土 (1-1)->(2-1)		
1 客土 客土・砂土・砾石	10t/m ² /30cmに亘る 黄褐色シルト	客土
1-1 客土	2.5t/m ² /10cm	砂 石 ソン
1-2 客土	10t/m ² /30cmに亘る 黄褐色シルト	砂 石 ソン
1-3 客土	7.5t/m ² /25cmに亘る ライダース山砂+砂石30~40%混	南側の客土
1-4 客土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色 砂 石 ソン	
II 客土・地山・地山と水田土質客土 (2-2-2->1-7)		
2 客土・砂土 客土・砂・砂 石・増量と水田土の切土客土	コンクリート等混入	
2-1 切土底土 切土底土	2.5t/m ² /10cmシルト主体	
2-2 切土底土	2.5t/m ² /10cmシルト	
2-3 切土底土	5t/m ² /20cmに亘る 30t/m ² /10cm 黄褐色シルト+砂石ラン30%混	
2-4 客土	7.5t/m ² /25cmに亘る ライダース山砂+砂石30%混	
2-5 砂石+碎石	7.5t/m ² /10cm 砂 黃褐色シルト+7.5t/m ² /25cmオーリー60%混	
2-6 切土底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト+2.5t/m ² /6cmに亘る 黄褐色土地山ブロック30% 混	
2-7 地山切土	2.5t/m ² /40cmに亘る 黄褐色山ブロック主体	
2-8 切土底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト	
2-9 切土底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト+2.5t/m ² /25cm 黄褐色シルト+水田切土40%混	
2-10 切土底土	5t/m ² /20cm 黄褐色シルト	
2-11 切土底土	6.5t/m ² /10cmシルト+2.5t/m ² /6cmに亘る 黄褐色土地山ブロック主体	
2-12 切土底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト	
2-13 切土底土	5t/m ² /10cm オーリー床+2.5t/m ² /6cm 黄褐色土地山ブロック主体+2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト5%混	
2-14 切土底土	5.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト主体+2.5t/m ² /6cm 黄褐色土地山ブロック20%混	
2-15 切土底土	2.5t/m ² /10cm オーリー床+2.5t/m ² /6cm 黄褐色土地山ブロック主体+2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト5%混	
2-16 切土底土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト	
2-17 切土底土	2.5t/m ² /40cm 黄褐色山ブロック主体+10t/m ² /25cm 黄褐色シルト5%混	2日目に限る
III 水田耕作土 (3-1)->(3-5)		
3 水田耕作土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト+10t/m ² /25cm 黄褐色シルト+2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト	
3-1 水田耕作土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト 酸化鉄分少量混	
3-2 水田耕作土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト	
3-3 水田耕作土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト	
3-4 水田耕作土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト+10t/m ² /25cm 黄褐色シルト 稲和40年代以前の水田耕作土	
3-5 斜面耕作土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト	
IV 水田底土 (4-1)->(4-2)		
4 水田底土	50t/m ² /1オーリー床+2.5t/m ² /40cm 黄褐色土地山ブロック+2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト5~10%混 着き均し	
4-1 水田底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト主体	
4-2 水田底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト主体	
4-3 水田底土	2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト主体	
4-4 水田底土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト+10t/m ² /25cm 黄褐色シルト 稲和40年代以前の水田耕作土	
4-5 斜面底土	2.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト	
V 砂質土 (5)		
5 砂質土	2.5t/m ² /40cmに亘る 黄褐色シルト+2.5t/m ² /20cm 黄褐色シルト+砂質土が構造 上位 2.5t/m ² /40cm 黄褐色 土山地 前期不規則	
VI 地山 (6)		
6 地山	7.5t/m ² /10cm 黄褐色シルト+砂土 2.5t/m ² /10cm オーリー床+砂質土 酸化して 2.5t/m ² /40cm 黄褐色砂 土上位は人為整地層	



第6図 断面図 (1/60)

表2 遺構 柱穴・溝跡

No	概方 (cm)	形	柱距離 (cm)	形	深さ (cm)	底面高 (m)	理上(略記号 C:HYR2/1黒色化物 地盤:地山ブロック)	新旧間 (後>既)
1	22	円	-	-	30	24.38	1 上位 2.5Y7/4(黄鉄黄土+1-10)YR4-2K 黄鉄シート10% 1 下位 10YR4-2K 黄鉄シート 3 下位 2.5Y7/4(黄鉄黄土+1-10)YR4-2K 黄鉄シート40% 4 底面 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y6-32cmにシート質分がやや多く地盤20%	>2>20>4 3>20
2	21	円	9	円	20	24.26	5 斜面 上位 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 6 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート4-8%と重ねかわらし1出土 7 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート4-8%と重ねかわらし1出土	>1>2>20>4 3>20
3	19×19	円	11×11	円	17	24.23	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 2 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート4-8%と重ねかわらし1出土 3 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート4-8%と重ねかわらし1出土	>3>20
4	32×34	円	13×14	円	35	24.0	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 2 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート4-8%と重ねかわらし1出土	>4>20
5	18×22	椭円	10×16	円	24	24.12	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 2 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート4-8%と重ねかわらし1出土	>5>20
6	(21)	円	9	円	8	24.43	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 2 地盤 2.5Y6-32cmに青い粘土+砂質地盤シート+1体+10YR4-2K 黄鉄シート10%	>6>20
7	(40)	円	-	-	6	24.26	理上 不明 地山由時計山地由	
8	23×20	椭円	14×13	円	27	24.13	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 2 地盤 75Y6-2K 黄鉄オーリープシート+10YR4-2K 黄鉄シート30%混	>8>20
9							大喬木 長尾山の櫻	
10							大喬木 砂地の櫻	
11	30×-	椭円	16	円	34	24.06	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 2 地盤 2.5Y6-32cm(オーリープシート+2.5Y7/4)地盤 黄鉄シート30% 下位 地山由時計山地由	>11>12>13
12	40×31	椭円	14	円	9	24.33	4 札根地 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3% 5 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+2.5Y6-32cm(オーリープシート+2.5Y7/4)地盤 黄鉄シート30%混	>11>12>13
13	36	方形	10	円	58	23.82	6 札根地 2.5Y7/4(黄鉄黄土+2.5-2.5Y6-2K 黄鉄地盤シート30% 7 地盤 2.5Y6-2K 黄鉄-2.5Y6-32cm(オーリープシート+2.5Y7/4)地盤 黄鉄シート30%混	>11>12>13
14	32×31	円	17×17	円	44	23.94	1 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3%混 2 地盤 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y6-32cm(オーリープシート+2.5Y7/4)地盤 黄鉄シート30%混	>11>12>13
15	24×25	円	14×11	椭円	44	23.95	1 10YR4/2(灰岩シート+2.5-2.5Y6-2K 黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3%混 2 5.5-6地盤地盤シート+1-10YR4-2K 黄鉄シート+1-10%混 3 2.5Y6-3地盤シート 地山由時計山地由	>11>12>13
16	25×15	椭円	9	円	20	23.99	1 地盤地 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3%混 2 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート+10%混	>11>12>13
17	9×10	円	-	-	8	24.14	理上 10YR4-2K 黄鉄シート上体 周囲に地山由みられる箇所あり	
18	26	円	16	円	54	23.84	1 地盤地 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3%+ 僧少量 2 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート+1-10%混 3 2.5Y6-3地盤シート 地山由時計山地由	>11>12>13
19	20×19	椭円	12×12	方形	7	23.75	理上 10YR4-2K 黄鉄シート+2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1.5%+3ミリ大のC3%+ 僧少量 2 地盤 2.5Y7/4(黄鉄地盤シート+1-10)YR4-2K 黄鉄シート+1-10%混 3 地盤 2.5Y6-3地盤シート 地山由時計山地由	>11>12>13
20	34	円	不明	-	20	24.20	理上 2.5Y7/4(黄鉄黄土+1体)+10YR4-2K 黄鉄シート10%混 穴穴の断面理上に似る	>3>20>4 3>20



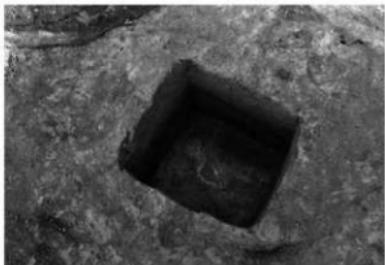
調査区全体（北東から）



柱穴18断面（南から）



1号溝完掘と南壁断面（北西から）



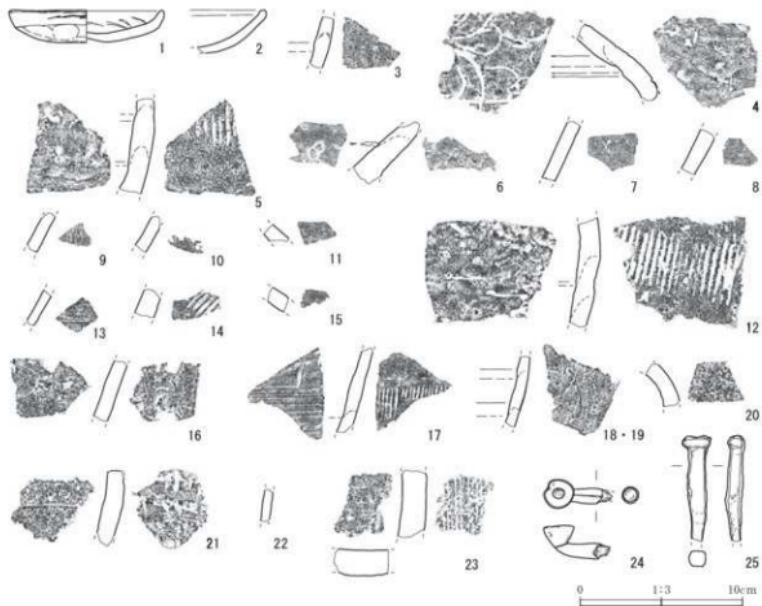
南側地山トレンチ（南から）

写真図版3

表3 遺物集計表

遺構 居位	かわらけ				国産陶器			中国産		その他	年代
	小計	手づくね	ロクロ	不明	重量g	常滑	渥美	愛器系	白磁	焼土	
柱穴 1 墓土	1			1	1						鉄釘1 鉄製品1
柱穴 1 柱痕跡	5	2		3	38						12c
柱穴 2 墓土	1	1			68					2	
柱穴 4 挖方	1	1			3					2	
柱穴 4 柱痕跡											
柱穴 6 挖方					1						12c
柱穴 8 柱痕跡	1		1	1							
柱穴 11 柱痕跡	3	1		2	4						
柱穴 12 挖方	2			2	3					2	
柱穴 12 柱痕跡	4	2		2	21					3	
柱穴 14 墓土	1			1	1						
柱穴 14 挖方	2			2	2						
柱穴 15 柱痕跡	2			2	2						
柱穴 17 墓土	6				6	5					
柱穴 18 挖方	4	1		3	5					2	
柱穴 18 柱痕跡	10	3		7	19						
柱穴 19 挖方	1			1	1						
柱穴 19 柱痕跡	4			4	5						
柱穴 小計	48	11		37	179	1				11	
1号溝 墓土	26	8		18	41	1	4			13	瓦 (12c) 1 煙管1
											近世以降

土層	かわらけ				国産陶器			中国産		その他	年代
	小計	手づくね	ロクロ	不明	g	常滑	渥美	愛器系	白磁	焼土	
遺構外一括	17	3		14	35	1				2	近現代陶磁器
Ⅱ 客土切土	3			3	5	2					不明
Ⅲ 水田耕作土	202	22	3	177	413	1	4			18	鉄製品1
Ⅳ 水田床土	37	2	1	34	93	2	2	1	1	11	砥石1、木1、種子1、竹1、近現代陶器1
上層 小計	259	27	4	228	546	6	6	1	1	31	
全体 合計	333	46	4	283	766	8	10	1	1	55	



第7図 遺物 (1/3)

表4 遺物観察表 かわらけ

No	国版	写図	出土位置・層位	種類	法量(推定)cm		残存率 (%)	年代	備考	登録No	
					口径	底径					
1	7	5	柱穴2 地下位	手・小	9.5	—	2.0	95	12c	口縁に接合痕 内面に爪状の凹み	57
2	7	5	柱穴12 柱軌跡	手・大	—	—	—	小片	12c	内外面風化	33

表5 遺物観察表 国產陶器・その他

No	国版	写図	出土位置・層位	種類	器形	部位	残存率	年代	備考	登録No
3	7	5	柱穴6 挖方	常滑	壺	胴	破片	12c		45
4	7	5	1号溝 墓土	潤美	壺	肩	破片	12c	外面刷画文	31
5	7	5	1号溝 墓土	潤美	壺	胴	破片	12c	外面押印 5・12同一個体	26
6	7	5	1号溝 墓土	潤美	壺	胴下	破片	12c		26
7	7	5	1号溝 墓土	常滑	壺	胴	破片	12c		26
8	7	5	1号溝 墓土	潤美	壺	胴下	破片	12c		14
9	7	5	遺構外 1括	常滑	壺	胴	破片	12c	9・11・17同一個体	2
10	7	5	北側 2層(水田)	常滑	壺	胴	破片	12c		20
11	7	5	東壁 2層(水田)	常滑	壺	肩	破片	12c	9・11・17同一個体	24
12	7	5	南側 3層(水田)	潤美	壺	肩～胴	破片	12c	格子状押印 5・12同一個体	6-1
13	7	5	北側 3層(水田)	潤美	壺	体	破片	12c		9
14	7	5	北側 3層(水田)	潤美	壺	胴	破片	12c	外面押印	12
15	7	5	北側 3層(水田)	潤美	壺	体	破片	12c	小片	12
16	7	5	北側 3層(水田)	常滑	壺	胴	破片	12c	外面摩滅	30
17	7	5	南側 4層	常滑	壺	胴	破片	12c	細い格子状押印 9・11・17同一個体	11
18	7	5	南側 4層	潤美	壺	体	破片	—	18・19後合	11
19	7	5	南側 4層	潤美	壺	体	破片	12c	18・19後合	11
20	7	5	南側 4層	常滑	壺	肩	破片	12c	外面施あり	19
21	7	5	南側 4層	瓦器系	鉢	口縁～体	破片	13c	胎土にぶい橙 宮城県北産	19
中国産磁器										
22	7	5	南側 4層	白磁	壺	胴	破片	12c	壺水注口系	11
土製品										
23	7	5	1号溝 墓土	瓦	平瓦	胴	破片	12c	残存長4.3cm 厚さ1.6cm 胎土灰白	26
金属製品										
24	7	5	柱穴1 柱軌跡	金網製品	鉄釘	—	破片	12cか	6.3×1.7×0.8cm	38
25	7	5	1号溝 墓土	金網製品	錐管	雁首	破片	近世以降	残存長4.2cm 火口1.8cm	14



調査区北壁と北西側の柱穴プラン（南から）

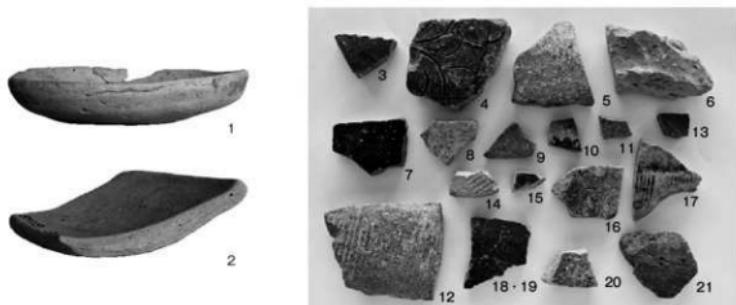


北西側 柱穴プラン検出（西から）



北西側 柱穴完掘（西から）

写真図版4



写真図版5 遺物

白山社遺跡第11次発掘調査

1 調査要項

地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字鈴沢34番
 調査面積 120 m²
 調査期間 令和3年4月12日～5月6日
 原 因 住宅建築
 調査担当 菅原計二

2 位置と概要

調査地点はJR平泉駅の北約400mに位置する住宅地である。白山社遺跡は国の特別史跡毛越寺跡附鎮守社跡の飛地指定を受ける白山妙理堂境内を中心として東西約300m・南北約200mの広がりを持ち、北の無量光院跡とは町道花立線を挟んで隣接する。調査地点は町道の南側に当たり、町道花立線の東は伽羅之御所跡、西は花立Ⅱ遺跡と金鶏山の南麓に続く。当地の地形は金鶏山や花立山から南東方向に下る緩斜面の続きで、白山社遺跡の堀跡や鈴沢の池跡の低地に向って下る。当地には平成21年(2009)頃まで製材所関連の建物があり、解体された後は平坦な空地で東側は小さな畑であった。調査は住宅予定地の東西15m×南北8mの範囲を重機で掘削した後、作業員により残土の処理と遺構検出を行った。調査の結果、北から南に下る緩斜面の地山や堆積土を掘り込む形で柱穴35(掘立柱建物跡1棟を含む)、焼土造構1、土坑2、溝跡1、落込み1を検出した。遺物は12世紀のかわらけや常滑産陶器、中国産白磁などが少量出土した。

3 調査成果

遺構: 柱穴35(掘立柱建物跡1棟)、焼土造構1、土坑2、溝跡1、落込み1

遺物: かわらけ、国産陶器(常滑3)、中国産白磁1、焼土ブロック、炭化物、雑物(木・ガラス等)



第1図 位置図(1/5,000)

(1) 土層 (第4図・表1)

当地的標高は調査区の北西隅で27.44m、北東27.32m、南西27.26m、南東27.32m、東側の畠は27.21mである。遺構検出面は調査区中央北寄りの柱穴3付近で27.16m、調査区南東端から南壁中央では標高26.73mである。調査区東側から南東壁面にかけては木製電柱とアンカーを埋設したとみられる大きな搅乱が3か所あった。土層は表土と耕作土などの堆積土、遺構と地山を含めて7層(I~VII)に大別した。

Iは表土で、客土と搅乱が入る。IIは堆積土の上層で灰黄褐色シルト主体、IIIは堆積土の中~下層でにぶい黄橙シルト主体、VIは焼土遺構(1号焼土)、VIIは地山である。遺構検出面はにぶい黄橙もしくはにぶい黄色を呈するシルトが主体で、地山を幾分掘り込むと浅黄粘土またはシルト、搅乱や深掘り部分はグライ化してオリーブ灰色となる。

表1 土層

層	内容	土色等
I 表 土(1・1-1~3)	10YR3/2黒褐色シルト~10YR4/2灰黃褐色シルト等	表土・搅乱・オガクズ・切土盛土
II 堆積土(2・2-1)	10YR5/2灰黃褐色シルト	堆積土上層 耕作土か 2-1 酸化鉄分沈着土
III 堆積土(3・3-1~3-5)	10YR6/4にぶい黄橙シルト	堆積土中~下層
IV 落込み(4・4-1~4-3)	10YR6/3にぶい黄橙シルト主体	2.5Y4/2暗灰黄~2.5Y7/2灰黃褐色
V 落込み西側(5・5-1~5-2)	10YR6/2灰黃褐色シルト主体	5Y4/2灰オリーブシルト 西側断面
VI 1号焼土(6・6-1~6-8)	10YR6/4にぶい黄橙シルト主体	人為的な切土盛土
VII 地山(7・7-1~7-2)	2.5GY5/1オリーブ灰褐色シルト~粘土	酸化して2.5Y7/3浅黄~10YR6/4にぶい黄橙シルト~粘土

(2) 遺構 (第2~12図・表2~3)

柱穴並びに1号建物跡(第5・6・8図・表2)

柱穴 調査区全体から35個を検出した。掘立柱建物跡を構成する柱穴と、製材所関連施設の小穴や基礎とみられる搅乱状の穴がある。平面形は掘方が直径9~40cmの円形または梢円形で、柱痕跡は円形が主体である。なお柱穴13とした痕跡は木根跡と判明し、欠番とした。

1号建物跡 調査区中央から南側で検出した。13個の柱穴で想定した東西三間(5.60m)×南北二間(3.40m)の東西棟の建物で、軸線はN92°Eの傾きで西側に庇の出(0.90m)が付くものと想定した。3個(16・31・34)の柱穴が1号焼土を切る。配置は北辺が柱穴8・9・16・34・30、中間が柱穴12・11・31・28、南が柱穴35・24・32の順で並び、柱間は西から0.95m・1.90m・1.90m・1.70m等間である。柱穴14は柱穴16と35の南北軸からは外れ、柱穴11から1.30mの位置に片寄りがあるが、これは柱の配置を西側に寄せた棟持柱と推定した。柱穴の埋土はいずれもしまりがある。柱穴35は南側の堆積土中位で検出した。年代は12世紀以降で中世~近世の可能性があるが、柱穴からの出土遺物が無く、年代は不明である。

その他の柱穴 その他の柱穴は小穴や土坑状の掘り込みである。埋土はややしまりが無く、柱穴1・3・4・5・10から焼土ブロックが、柱穴1・2・19・20から木片が各々少量出土した。板材や炭化物などが埋土に混入する様相から、これらは製材所に関連した建物や掘り込みとみられる。

焼土遺構

1号焼土(第9・10図・表3) 調査区中央で東西4.00m×南北4.00mの不整円形の人為的な掘方埋土と褐色の焼土を伴う遺構である。断面形は浅い皿形を呈し、深さ45cmを測る。遺構検出面は北側27.15m、南側26.86m、底面標高は26.70mで、遺構の新旧関係は1号建物跡の柱穴16・31・34が1号焼土の遺構検出面から掘り込むため、1号建物跡よりも古いことが分かる。埋土は地山に酷似した人為的な切土盛土が主体で、上・中・下の三層に大別できる。上層はにぶい黄橙シルトが主体で黒色炭化物が微量混入する。中層は上位の褐色被熱面が東西2.30m・南北1.20mの梢円形に広がり、中

位は黒色炭化物が多く含み南東からやや多く出土した。下位はグライ化して黒褐～灰黄褐色を呈する。下層にはにぶい黄橙シルトの地山ブロックが主体で地山によく似るが、わずかに黒色炭化物が混入する。この中～下層から12世紀のロクロかわらけと常滑産陶器1片が出土した。かわらけはほぼ完形の1点と数点の破片がある。1号焼土は切土整地した平坦な地表面を乾燥させる意図で、強い火力により空焚きした様相と捉えた。金属関連の津や羽口などは出土していないが、12世紀後半の焼成遺構の基底部と推定している。

土 坑（第11・12図・表3）調査区の南西隅で1号土坑、東側トレンチで2号土坑を検出した。

1号土坑 調査区南西隅で検出した。Ⅱ層から地山まで円筒型に掘り込まれ、平面形は地山面で東西131cm×南北119cmのほぼ円形で地山面からの深さは30cmを測り、底面もほぼ平坦である。埋土は上位がにぶい黄橙シルト主体、下位はにぶい黄橙シルトに浅黄シルト地山ブロックが多く混じるしまりのない埋土で、比較的新しい掘り込みと判断した。検出時から墓壙の可能性を考慮して精査したが、改葬の痕跡や遺物は出土せず確定できなかった。

2号土坑 東側トレンチで検出した小さな集石を伴う遺構である。平面形は東西36×南北44cmの楕円形で、平坦な地山を約8cm皿形に掘り込んだ窪みに2～10cm大の円碟を60個ほど密に詰めていた。埋土はにぶい黄橙シルト主体で底面標高は26.92mである。礎石建物に伴う根固め石の可能性も考慮したが、小規模で展開も不明なため単独の土坑として扱った。碟以外の遺物は出土せず、用途や年代は不明である。

溝 跡（第7図・表3）

1号溝 調査区の北側中央から東壁にかけて東西方向の溝跡1条を検出した。西側は地山面の削平で遺構は失われている。軸線はN 92°Eを測り、長さ9.70m、溝幅0.75m、深さ8cmの規模で地山を明瞭に掘り込む。断面は浅い皿形を呈する。溝跡の底面は標高27.00mで中央から東端まではほぼ平坦である。埋土は灰黄褐シルトが主体で、精査や土層観察の際には浚渫の痕跡などは確認できなかった。落込みに被われた部分では溝の埋土がグライ化して変色するが、溝跡が北に屈曲するような掘り込みは認められなかった。1号溝の延長を追跡するため、東側の畑に小トレンチを設定して掘り下げたところ、溝の底面とほぼ同じ標高26.98mで平坦な地山面を検出した。ここでは2号土坑を検出したのみで溝の延長は確認できなかったが、溝の埋土が削平された可能性が高く、1号溝は東西方向に直進していたものと捉えている。遺物はかわらけ片と常滑産陶器1片、小さな円碟が少数出土した。年代は12世紀もしくは以降である。

落込み（第2・7図・表3）

調査区北西側から北壁にかけて東西7.00m、南北1.40mの範囲で検出した浅い窪みを「落込み」とした。検出面は標高27.00～27.05m、底面は約26.93mでほぼ平坦である。埋土は灰黄褐～にぶい黄橙シルト主体で黒色炭化物をわずかに含み、1号溝を被いながら北側に約10cmの厚さで堆積する。1号溝と重複する部分はグライ化して灰オリーブを呈し、埋土が酷似する。出土遺物は小碟が少数出土した。小規模な耕作地に伴う掘り込みと思われるが、明確な用途や年代は不明である。

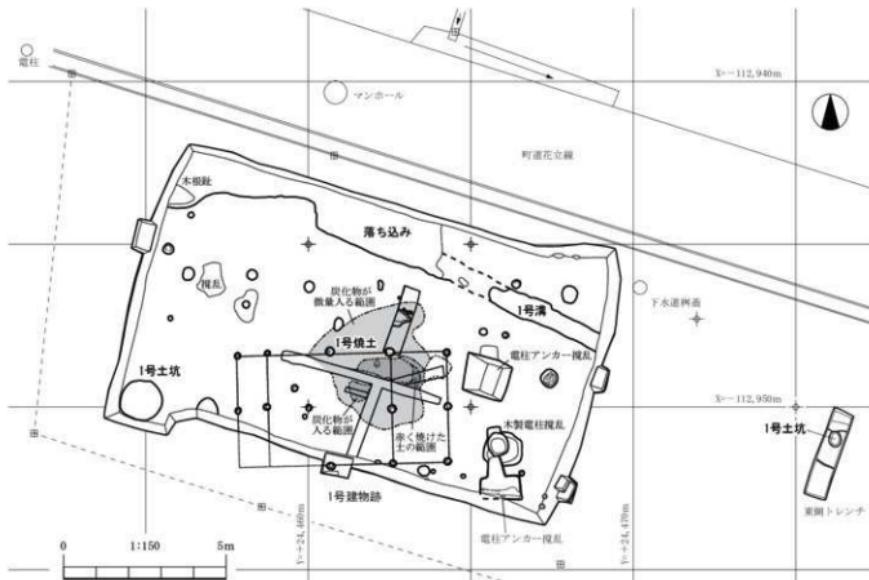
(3) 遺 物（第13図・表4～6・写真図版4）

遺物は種類・量ともに少ない。かわらけ72点(267g)、国産陶器(常滑産窯)3点、中国産白磁1点、焼土ブロック、黒色炭化物、種子類、小碟、木片や雑物が少量出土した。遺構別には1号焼土からロクロかわらけと常滑産陶器1点、1号溝から常滑1点、遺構外から常滑1点と中国産白磁皿1点が出土した。第13図1～3は1号焼土から出土したロクロかわらけで、1と2の内外面に油煙が付着、12世紀の灯明皿か。4～6は常滑産窯で胎土や釉が似る。同一個体か。12世紀。7は中国産白磁皿の小片で12世紀である。

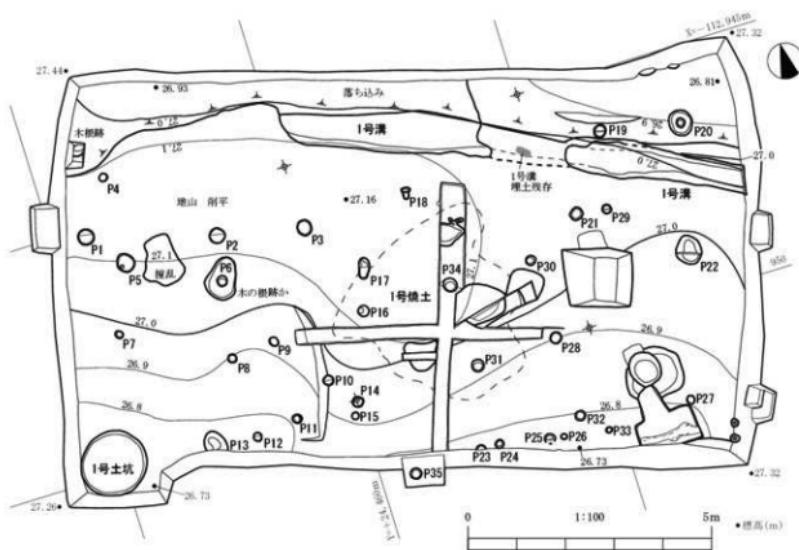
4まとめ

当地は白山社遺跡の北側に位置し、無量光院跡との間を区切る町道花立線の南側に当たる。検出した遺構の年代は、1号建物跡が12世紀以降で中世または近世の可能性があると推定しているが、出土遺物が無く年代は不明である。その他の大小の穴は平成21以前の製材所や施設に伴う比較的新しい掘り込みとみられる。1号焼土は12世紀の炉や鑄造等の強い火力を伴う施設の基盤層と推定される。1号土坑は用途不明の新しい掘り込み。2号土坑は集石を伴う小規模な掘込みだが用途・年代共に不明。1号溝は12世紀の区画に沿った溝跡で、道路側溝の可能性がある。遺物は12世紀のかわらけや常滑産陶器、中国産白磁が少量出土した。当地点の土地利用の状況については明治42年の「北上川河川台帳附図」を参考とした。この図では当地の北側に水田、東西道路を挟んだ南側には畠や墓地、境内地を囲む堀跡には水田とみられる記号が見える。

町道花立線については白山妙理堂を所有する毛越寺支院白院に伝わる古絵図「御宮古今次第秘傳」(享和元年=1801)の「御宮古絵図(常世)」と「御宮古絵図(往日)」(町文化財調査報告書第89集に掲載)の二点に堀の北側に沿った東西方向の道が描かれ、町道花立線はこの道を踏襲しているものと推定される。1号溝はこの道の軸線に沿って掘られた可能性がある。



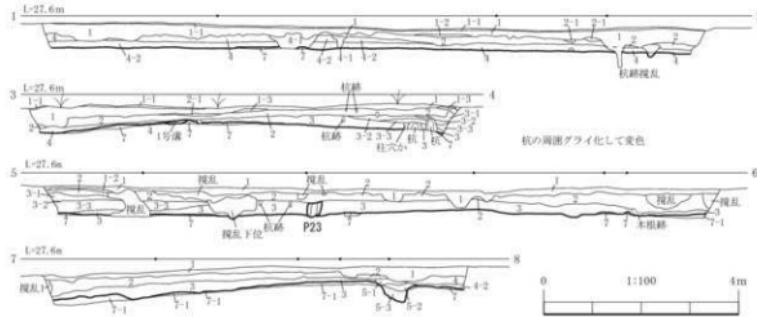
第2図 調査区全体図 (1/150)



第3図 遺構名称・センター図 (1/100)



写真図版1 調査区全体 (南から)



第4図 断面図 (1/100)

SP.1-2~7-8・SP.95-96~101-102

I 表土・客土・根付・その他 (1-1~1-3)

I-1 客土 10YR3/2 黒鶴シルト 製材所解体時の堆積混入 (レンガやガラス片)

I-2 オガクズ 10YR4/2 黄褐色シルト+円礫・砂石ラン、レンガ等が混入。

I-3 切土盛土 10YR4/4 暗褐色植物殻 製材所で発じたオガクズ層

II 堆積土 (2-1~2-1)

2 堆積土 10YR5/2 黄褐色シルト 堆積土上層 稲作土

2-1 堆積土 10YR5/2 黄褐色シルト 2-2上位で境界に酸化鉄分が多く入る

III 堆積土 (3-1~3-3)

3 堆積土 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト 堆積土下層

3-1 堆積土 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト主体 堆積土中層上位

3-2 堆積土 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト 主体が上位よりやや多い、 堆積土中層位

3-3 堆積土 10YR5/4 にぶい 黄褐色シルト 2~8ミリ大の黒色炭化物 2~2%混 堆積土中層下位

IV 落込み (4-1~4-2)

4 落込み 2.5Y4/2~2.5Y5/2 晴灰黄シルト 主体 グライ化して 5%灰オリーブ 新しい遺物無し

4-1 酸化鉄分 10YR4/4 桶シリ化鉄分沈澱

4-2 落込み 2.5Y5/2 晴灰黄シルト 主体 グライ化して 5%灰オリーブ 4より明るい 下位埋土 煙もしくは水田耕作土か不明

V 落込み西側 (5-1~5-3)

5 落込み 10YR6/4 黄褐色シルト 5Y4/2 水オーリーブシルト+10YR5/6 黄褐色酸化鉄分少量混入

5-1 落込み 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト グライ化して 2.5Y7/2 灰黄

5-2 落込み 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト グライ化して 2.5Y7/2 灰黄

5-3 落込み 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+7.5YR6/6 明褐色酸化鉄分少量混 木根跡

VI 1号機土 埋土 6-1~6-9・6a~6c

6-1 10YR7/3 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック20%混 2mmの大黒色炭化物ごくわずかに混入。切土盛土の上層!

6-2 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック10%混 5mmの大黒色炭化物わずかに混入。切土盛土の上層2

6-3 7.5YR7/6~10YR4/6 暗褐色被熟土

6-4 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック10%混 上位黑色炭化物多く混 中位10YR4/6 暗褐色被熟土。下位黒褐~灰黃褐色シルト 色変層

6-5 10YR4/2 黄褐色シルト 1号堆土に刺さる打ち込みの机跡

6-6 10YR4/2 晴灰黄褐色シルト+2~10mmの大黒色炭化物少混 南東側に炭化物多い

6-7 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/3 にぶい 黄褐色土地山ブロック10~30%混 2mmの大黒色炭化物ごくわずかに混 下層

6-8 2.5Y7/4 黄褐色 地山

6-9 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト 6-6に假想が炭化物を含まない 地山の変色か

サブレンチテラ断面

6a 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック20%混

6b 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック10%混

6c 10YR6/4 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック30%混

VII 地山 (7-1)

7 2.5Y7/4 淡黄シルト グライ化して 5G5/1 オリーブ灰シルト

7-1 2.5Y7/3 淡黄シルト

8 10YR6/2 黄褐色粘土

9 10YR5/4 にぶい 黄褐色シルト主体 埋土上位 埋土にあまりしまりない 埋土上位

SP.103-104 1号土坑

1 10YR6/3 にぶい 黄褐色シルト主体 埋土上位 埋土にあまりしまりない 埋土上位

2 10YR6/3 にぶい 黄褐色シルト+2.5Y6/4 にぶい 黄褐色土地山ブロック30~40%混 埋土下位

SP.105-106 東側トレーシング

1 表土 10YR5/3 にぶい 黄褐色シルト主体 1~2cmの大塊や雑物が混入

2 堆積土 10YR6/2 黄褐色シルト主体 稲作土上位

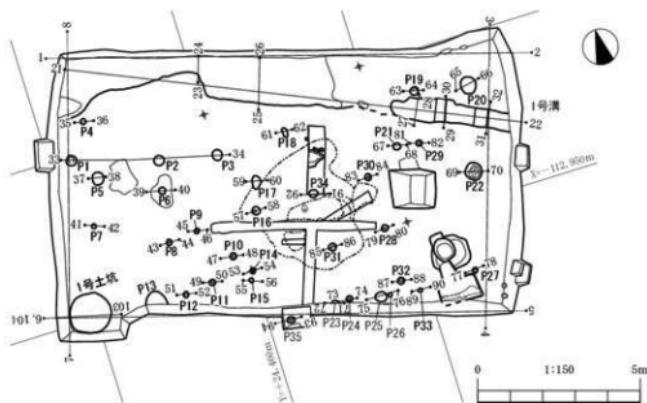
3 堆積土 10YR4/2 黄褐色シルト+10YR5/3 にぶい 黄褐色シルト+7.5YR5/6 明褐色酸化鉄分や多く混

4 落込み 10Y5/2 オリーブ灰シルト 酸化して 2.5Y6/3 にぶい 黄褐色 北側の落込み埋土

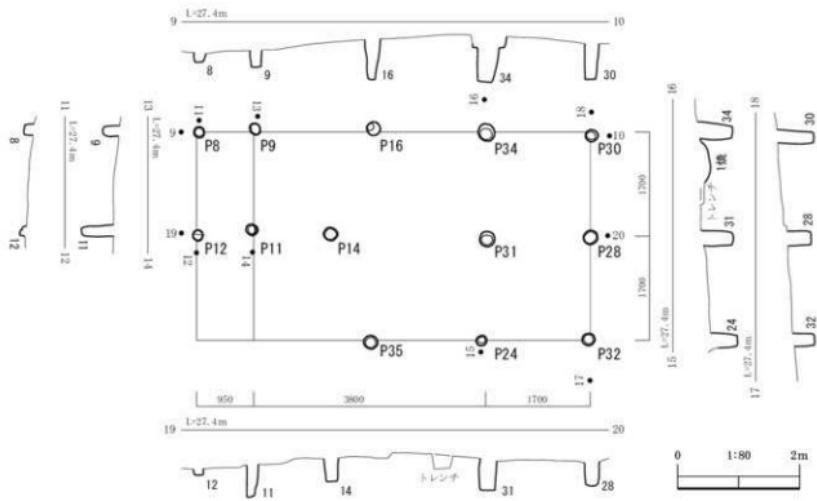
7 地山 2.5Y7/4 淡黄シルト グライ化して 2.5Y5/3 黄オリーブ

SP.109-110

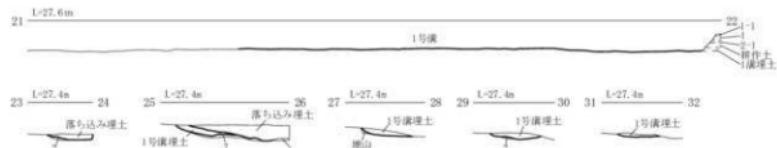
2号土坑 10YR6/3 にぶい 黄褐色シルト



第5図 测点位置図 (1/150)



第6図 1号建物跡 (1/80)



SP.23-24～SP.31-32
1号溝 10YR6.2灰黄褐色シルト～10YR6.3に近い、黄褐色シルト主体+2mm大の黒色炭化物を微量含む。かわらけ片少量出土
落込み埋土
落込み埋土
1号溝埋土
1号溝埋土
1号溝埋土
1号溝埋土

第7図 1号溝エレベーション・断面図 (1/60)

表2 遺構 柱穴

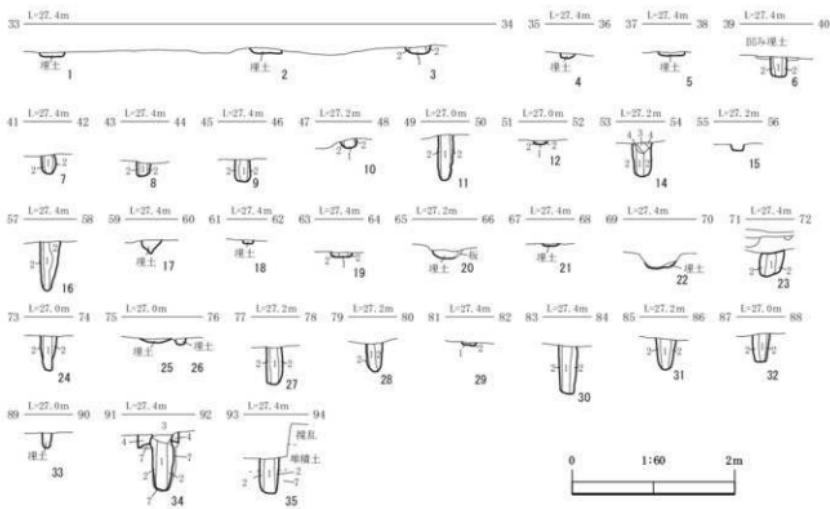
No.	幅員 (cm)	平面形	柱跡 (cm)	平面形	深さ (cm)	底面標高 (m)	埋土 (I柱痕跡 2.圓洞) 略記号 C:10YR2/1 黑色炭化物	遺構 新山地盤 (前>II)
1	31	円	-	-	6	27.00	埋土: 10YR4-2K 黄褐色シルト土体+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック20%混 しまりない	
2	33×32	梢円	-	-	6	27.04	埋土: 10YR6-2K 黄褐色シルト土体+10YR6-4/に古い黄褐色シルト地山ブロック10%混 しまりない	
3	29×31	円	-	-	10	27.02	埋土: 10YR5-2K 黄褐色シルト土体+シルト地山ブロック10%混 新しい埋土	
4	17×16	梢円	-	-	11	26.93	埋土: 5Y6-4/リープ黄褐色シルト地山ブロック2~3cm大のC1未満混 (浅) 蔓生	
5	32×37	円	-	-	6	27.00	埋土: 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2~7cm大のC1未満混 (浅) 蔓生	
6	23×22	円	-	-	28	26.74	1. 2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混 3. 3.5% 黄褐色シルト40% 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト2~3cm大のC1未満混 (浅) 蔓生	
7	14	円	-	-	24	26.75	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト2~3cm大のC1未満混 (浅) 蔓生	
8	20	円	9	円	17	26.74	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 9/に似る	1建
9	15×14	円	9	円	30	26.65	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 8/に似る	1建
10	20	円	12×11	円	12	26.88	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+10YR4-2K 黄褐色シルト20%+2~10cm大のC3未満 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+10YR4-2K 黄褐色シルト20%+2~3cm大のC1未満	1建
11	20×18	円	11	円	54	26.30	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+10YR4-2K 黄褐色シルト20%+2~3cm大のC1未満 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+10YR4-2K 黄褐色シルト20%+2~3cm大のC1未満	1建
12	16×18	円	9	円	7	26.71	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック30%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混 11/に似る	1建
13	欠多	-	-	-	-	-	3. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト 地山跡と見られる不整形な埋土	
14	16×18	円	10	円	40	26.55	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%+2~5cm大のC2%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック1~2cm大で40%混 3. 上位中央 4. 上位側面	1建
15	18×15	梢円	-	-	9	26.85	埋土: 10YR6-4L-4/5 黄褐色シルト土体+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%+2~5cm大のC1未満	
16	24×23	円	9	円	61	26.51	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 2. 2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%+10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト30%混	1建
17	25×42	梢円	-	-	12	27.03	埋土: 10YR3-2層隔離シルト 地盤状況の取り込み ガラス片混	16>1建
18	14×23	梢円	-	-	9	27.05	埋土: 10YR3-2層隔離シルト 地盤状況の取り込み	
19	24×25	円	13	円	6	27.01	1. 7.5%14-2層隔離シルト土体+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック2~3cm大で30%混 2. 10YR6-2K 黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック20%混	
20	46×51	梢円	-	-	24	26.69	埋土: 2.5%5 黄褐色シルト 木片10YR2/1層削除混	
21	23×21	円	-	円	2	27.07	埋土: 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト 地盤状況の取り込み7.5YR6-6 黑色炭化物分存量 新しい埋土か	
22	53×52	円	-	円	21	26.79	埋土: 10YR5-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック40%混	
23	28	円	12	円	7	26.70	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体 2 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体	
24	20	円	12×13	円	44	26.34	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体 2 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体	1建
25	30	円	-	円	6	26.68	埋土: 10YR7-3L-4/5 黄褐色シルト	
26	12	円	-	円	11	26.63	埋土: 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体	
27	18×17	円	11	円	48	26.37	1. 10YR7-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック30%混 2. 10YR7-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混	1建
28	20	円	11	円	38	26.32	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック30%混 2. 2.5%6/4 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混	1建
29	20×21	円	11×12	円	7	27.05	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック20%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック30%混	
30	22	円	11	円	61	26.45	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック30%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混	1建
31	23	円	15	円	51	26.54	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック30%混	31>1建
32	22×20	円	12×11	円	36	26.44	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック20%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混	1建
33	14×11	梢円	-	円	22	26.56	埋土: 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2~3cm大のC1未満混	
34	24×23	円	13	円	71	26.45	1. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 に古い黄褐色シルト地山ブロック10%混 2. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト土体+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混	1建
35	23×21	円	11	円	45	26.42	1. 10YR5-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック1~2cm大30%混 2. 2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック+10YR5-3L-4/5 黄褐色シルト40%混	1建

表3 遺構 燃土遺構・土坑・溝跡・落込み

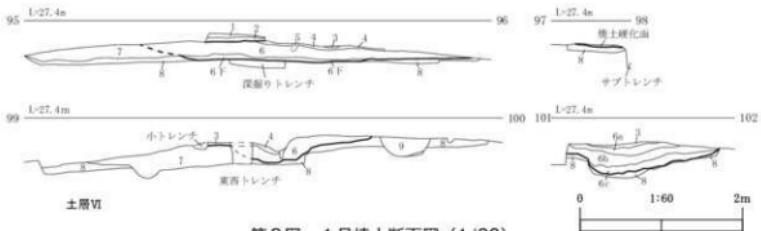
焼土遺構	焼出長 (cm)	純熱部 (cm)	平面形	断面	深さ (cm)	底面標高	埋土・遺物	年代
1号焼土	東西400 × 南北400	東西140 × 南北80	不要円	浅い U字形	45	26.70m	1. 10YR6-3L-4/5 に古い黄褐色シルト土体 しまりません 2. 中位 10YR6-4L-4/5 黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック10%混 3. 上位 程一見被覆焼土 4 中位黑色炭化物多く混 5 机跡 6. 10YR4-3L-4/5 黄褐色シルト+2~10cm大の黒色炭化物分存量 7. 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト+2.5%7/4 黄褐色シルト地山ブロック10%混	12世紀 後半

土坑	焼出長 (cm)	幅 (m)	袖縫	断面	深さ (cm)	底面標高	埋土・遺物	
1号土坑	131	119	円	U字形	30	26.44m	1. 10YR6-3L-4/5 に古い黄褐色シルト土体 しまりません 2. 10YR6-3L-4/5 に古い黄褐色シルト+2.5%6/4に古い黄褐色シルト地山ブロック30%混	不明
2号土坑	36	44	梢円	瓶形	8	26.92m	埋土: 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト 2~10cm大の埋6個が密に入る	不明

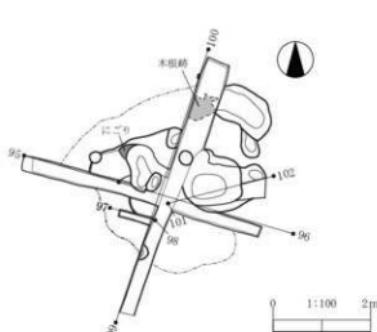
溝跡	焼出長 (m)	幅 (m)	袖縫	断面	深さ (cm)	底面標高	埋土・遺物	
1号溝	9.70	0.75	N92° E	浅い 盤形	8	西27.01m 東27.00m	埋土: 10YR6-2K 黄褐色シルト+10YR6-3L-4/5 に古い黄褐色シルト土体 2mm大の黑色炭化物を含む かわらけ片・小片量、常温陶器1点上	12世紀 以降
落込み	7.00	1.40			10		埋土: 10YR6-3L-4/5 黄褐色シルト 2~10cm大の埋約6個が密に入る かわらけ片・小片量、一部グライ化して7.5Y5-3灰オーブシルト	12世紀 以降



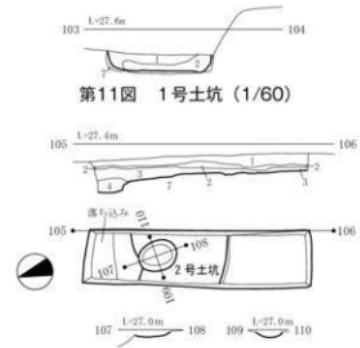
第8図 柱穴断面図 (1/60)



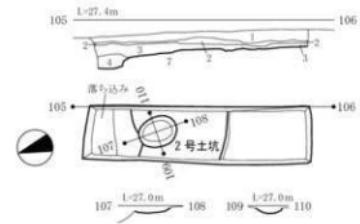
第9図 1号焼土断面図 (1/60)



第10図 1号焼土 (1/100)



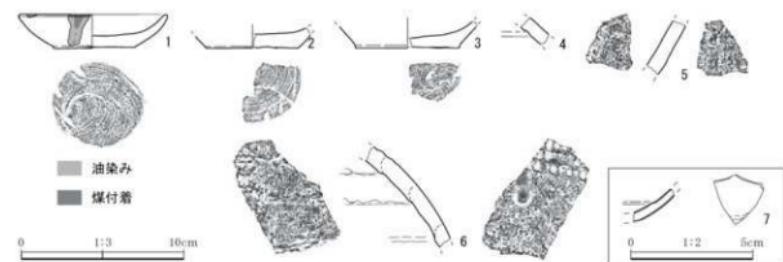
第11図 1号土坑 (1/60)



第12図 東側トレンチ・2号土坑 (1/60)

表4 遺物集計表

土層・遺構	かわらけ			中国産磁器 常滑	その他
	ロクロ	不明	重量(g)		
1 表土等	1	34	77	1	近現代瓦1、不明土器1
層位不明	1	1	1	白磁1	
1号焼土 埋土	7	14	176	1	鐵4
1号土坑 埋土					木1、炭化物少量
2号土坑 埋土					小鐵約60
1号溝 埋土		14	13	1	種子1(モモ類)、小鐵103
合計	9	63	267	3	白磁1



第13図 出土遺物 (1/3 · 1/2)

表5 遺物観察表 かわらけ

No	図版	写図	出土位置・層位	法量(推定) cm			残存率 (%)	年代	備考	登録No	
				種類	口径	底径	器高				
1	13	4	1号焼土 埋土	ロクロ・小	9.2	5.4	2.2	95	12c	内外面油煙付着 灯明皿か	39
2	13	4	1号焼土 埋土	ロクロ・小	-	5.6	-	30	12c	内面油煙付着 灯明皿か	2
3	13	4	1号焼土 埋土	ロクロ・小	-	6.4	-	20	12c	底部破片	18

表6 遺物観察表 国産陶器・中国産磁器

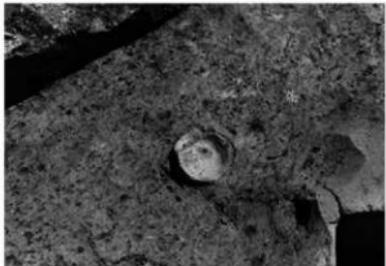
No	図版	写図	出土位置・層位	種類	器形	部位	残存率	年代	備考	登録No
4	13	4	1号焼土 4層	陶器 常滑	壺	肩~胴	破片	12c	小片 4~6同一個体	35
5	13	4	1号溝 埋土	陶器 常滑	壺	胴	破片	12c	小片 4~6同一個体	11
6	13	4	表土 I	陶器 常滑	壺	胴	破片	12c	外面押印 4~6同一個体	3
7	13	4	遺構外 一括	中国産白磁	皿	体	破片	12c	白磁皿VI型 広東系	1



1号建物跡と1号焼土（南東から）



1号焼土の断面とかわらけ1（南東から）



かわらけ1出土状況（北東から）



東側トレンチと2号土坑（南西から）

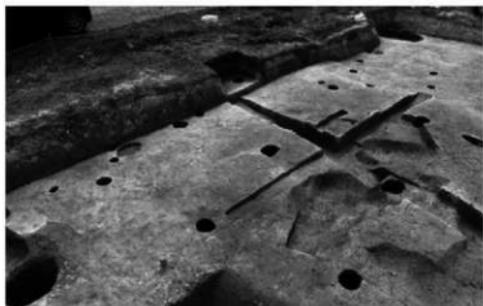


2号土坑集石（北西から）

写真図版2



1号焼土 土層断面（南から）

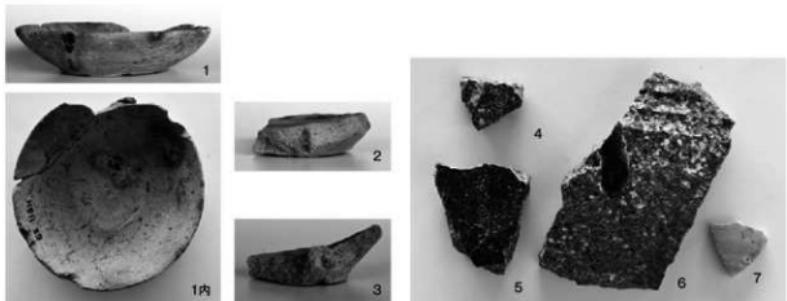


1号建物跡と1号焼土完掘（北東から）



11次調査区と町道花立線（東から）

写真図版3



写真図版4 出土遺物

毛越寺跡第20次発掘調査

1 調査要項

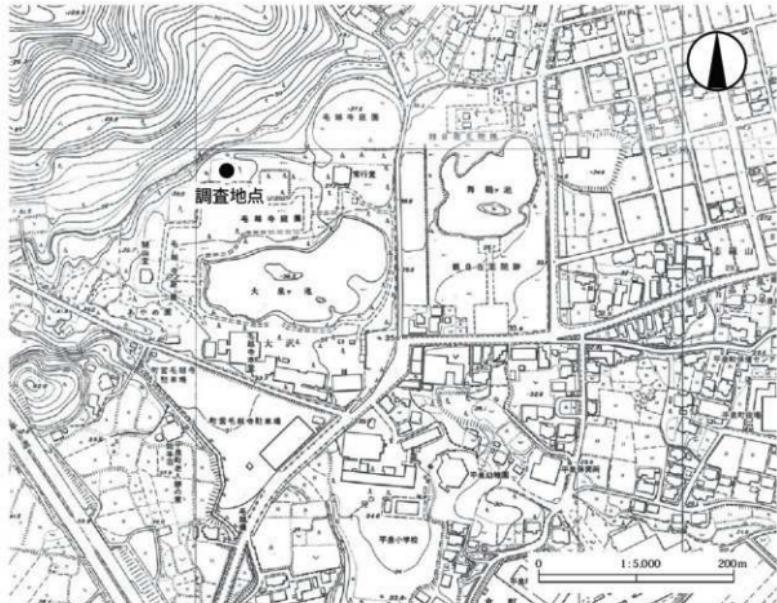
地 点 岩手県西磐井郡平泉町平泉字大沢58番地
 調査面積 30 m² 調査期間 令和3年10月18日～11月24日
 原 因 内容確認 調査担当 鈴木江利子

2 位置と概要

毛越寺跡はJR平泉駅から東に900mに位置し、二代基衡が造営し、三代秀衡が完成させた寺院である。境内は、北側に位置する塔山（標高121m）を背景として、その裾野には金堂円隆寺を中心とした伽藍と「大泉が池」と呼ばれる池があり、浄土庭園を構成している。

「大泉が池」北側に配された仏堂跡は、建物は失われたものの基壇と基壇上の礎石が残存しているが、地球温暖化の影響による集中豪雨、参拝客の踏圧の影響で、基壇の一部が痛み始め、修復の必要性が生じてきた。よって、事前に遺構情報の取得を目的とした内容確認調査を行うこととなったものである。調査は講堂跡、嘉祥寺跡、円隆寺跡を対象としており、令和3年度は講堂跡の発掘調査を行った。

講堂跡は金堂円隆寺の北西側に位置している。昭和32・33年（4・5次調査）に平泉遺跡調査会による発掘調査が行われており、基壇の規模や外装は木製基壇であることが確認されている（藤島亥治郎編1961『平泉 毛越寺と觀自在王院の研究』）。



第1図 位置図 (1/5,000)

3 調査の成果

講堂跡の調査箇所は、「20-1」基壇背面中央東寄り付近（背面中央部）、「20-2」北西部角周辺（北西部）、「20-3」前面中央東寄り（前面中央部）の3箇所である。

20-1では基壇の状態と礎石周辺を確認した。20-2では基壇外装部分で、地覆、羽目板、布石、雨落溝を、20-3では正面階段の東側の部分で、布石の配置から、階段の出を確認している。

遺構については4・5次調査をまとめた『平泉 毛越寺と觀自在王院の研究』（藤島亥治郎編1961）の呼称によった。また本文を書き出して、今調査の遺構検出状況の説明において不足分を補いたい。「基壇の周囲」の欄では「基壇の側面の直下には布石が敷かれてあり、それが原位置を守って堂を一周している（中略）粘板岩の板石を用いて（後略）」「基壇まわりの外側は雨落溝をなしていただろうと当然推測されるところであるが」とある。「基壇外装」では「前記布石の上に水平に横たわる地覆がある。これはほぼ4寸角の木材で、外側の上角には2分ないし3分の欠き面がとっている。同じく「縦羽目板が認められる。板厚は残存部分からは確認しがたいが本来あまり厚いものではないらしく、5分ないし8分、一枚の幅は平均7~8寸である。」とある。「木造の階段」では「基壇の南面と北辺面で、いずれも中央に階段があった事は、布石の形状から明らかであるが、」とはじまり、「基壇の木造外装に対して木造の階段が用いられるのは自然なことであるといえよう。」と結んでいる。

（1）20-1調査区

5次調査において東西・南北に横断する長いトレンチを設定し基壇の確認を行っている。この南北トレンチを利用して、背面中央にトレンチを設けたのが20-1調査区である。5次調査の範囲を確認するため、幅約2.5mの範囲で表土を剥ぐ作業を行ったが、過去の調査範囲を示す痕は現れなかった。本来の位置は留めていないと思われるが表土中にも小石が多く検出する状況であった。調査図面を頼りに範囲を絞ってトレンチを設定することとした。結果、トレンチの東壁に締まって硬い面を確認したこと、5次調査の箇所であると判断することができた。

場所は北辺の東から三か所目の礎石「へ三」から北側階段部分にかけてで、長さは6.6m、幅は0.8~0.9mの範囲である。

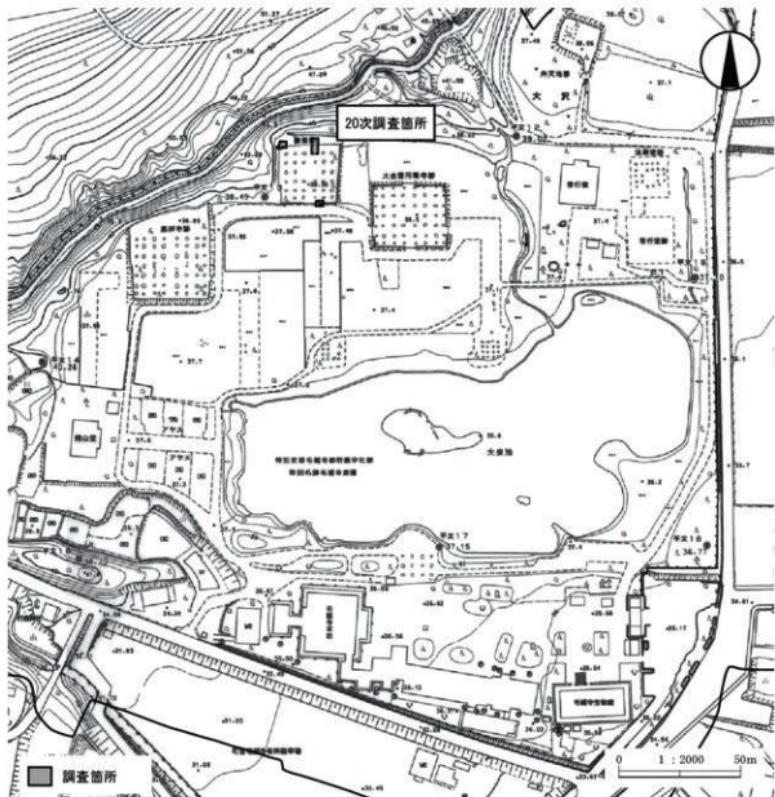
断面では、上層に表土があり、次に基壇として積み重ねた層、下層は暗緑からオリーブ色を呈す砂や粘土の自然層（地山）である。基壇構築で盛られた層は厚さ45~60cmで、層状の堆積状況を示し、小石が混入している。

礎石の周辺では断面に掘り込みを確認し、内には基壇構築層よりも大きめの石を多く含んでいる。礎石設置に伴う掘り込みと思われ、8層は掘り込み状に斜めに入り込み、礎石据え付け掘り込みと思われる。多く含んでいる石は根石として使われたと考えられる。上面の堆積層については過去の調査時など後世の堆積と考えられる。また、木の根が張っていて不明な部分もあった。

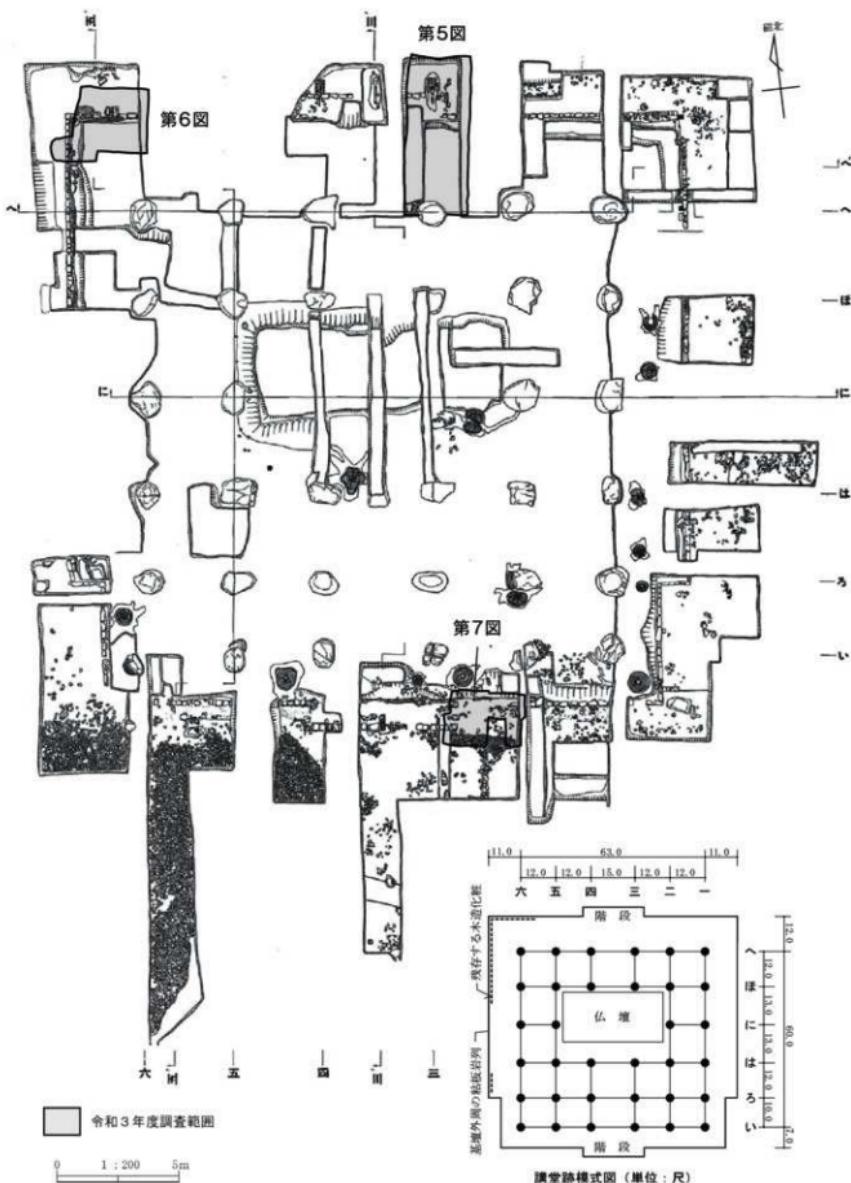
基壇周りの縁に用いている布石については、礎石から4.9m離れた箇所に1点確認できた。斜めになって原位置から動いた可能性もあり、他の粘板岩も周辺に埋め戻された状態である。4次・5次調査図では布石は3個程度東西方向に並んでいるが、現状は移動している。先に示した可能性のある1点は、東壁に一部入り込んで、20×18cmが検出している。水平ではないが、中央の高さが標高37.53mで、周辺壇上からは60cmの深さである。北西側の20-2調査区の布石より10cm程度低く、位置が保たれていない可能性がある。20-1での遺構確認標高値は以下の通りである。

礎石（へ三）上面：38.42m 布石上標高：37.53m

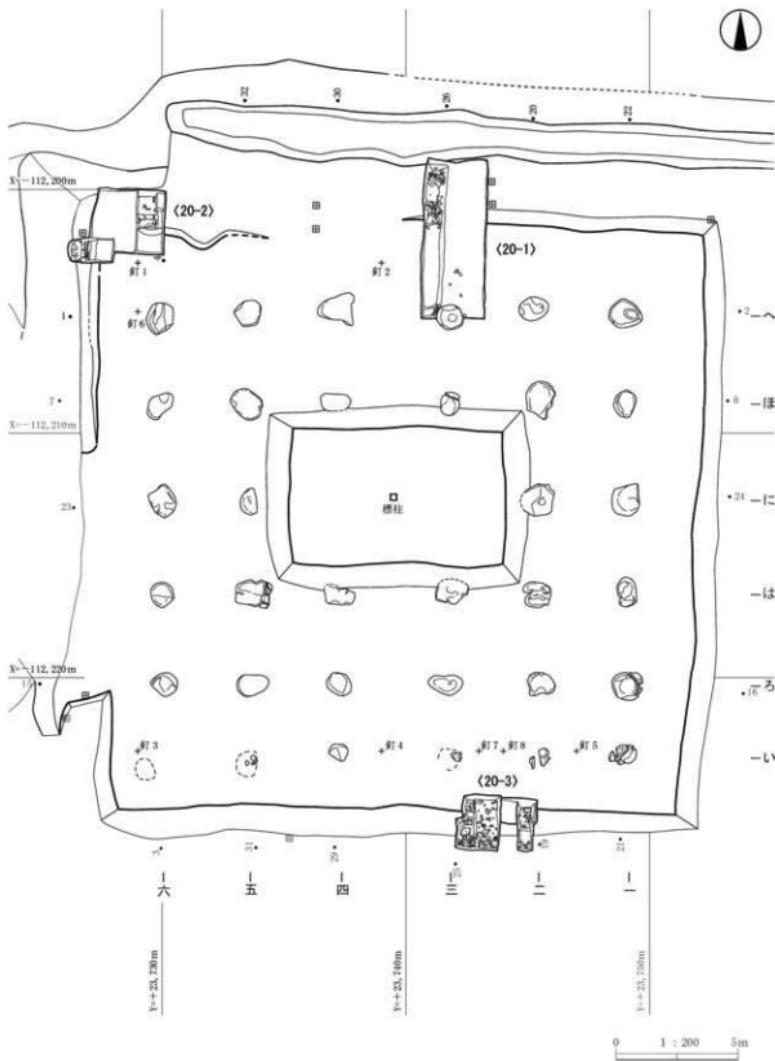
基壇確認標高：38.10m 基壇積み上げ基底部：37.51~37.61m



第2図 毛越寺第20次調査位置図



第3図 講堂跡調査図 第4・5次調査 (S32・33年)



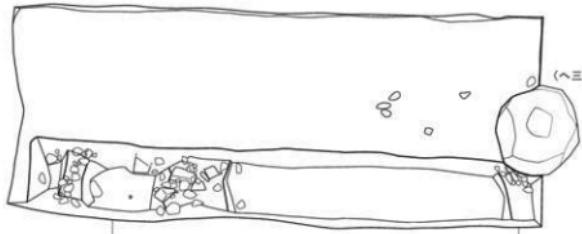
第4図 全体図

(20-1)

Y: +23,745m



5



Y: +23,740m

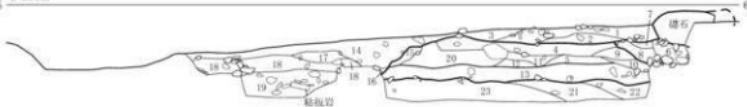
Y: +23,739m

Y: +23,738m

打2

Y: +23,738m

L: 30.5m



5-6

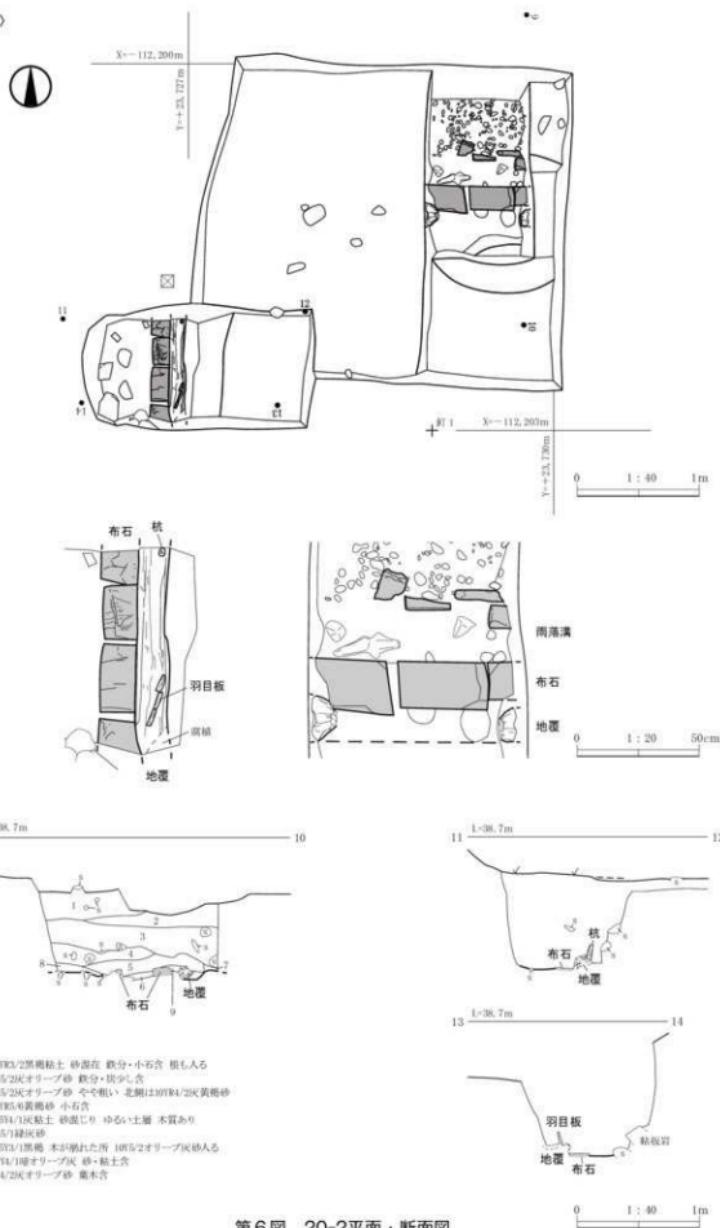
- 1 10TR2/3地盤シルト 石や根が混入する 表土
- 2 10TR3/4地盤 黄褐色土 砂多く含 小石含
- 3 10TR4/4地盤シルト 2.5T/3地盤黄土ブロック部入
- 4 2.5T/3地盤砂 10TR4/6地盤混入 小石含
- 5 2.5T/3地盤砂 10TR4/4地盤混入 砂分 粗が入る
- 6 10TR5/6地盤シルト
- 7 10TR4/6地盤
- 8 2.5T/3地盤 黄褐色土 砂含
- 9 2.5T/3地盤 黄褐色土 小石含
- 10 10TR4/4地盤 粗な土
- 11 2.5T/4地盤 黄褐色土 同前 10TR4/6地盤 小石混入
- 12 10TR4/4地盤 5T/3地盤 黄褐色土少し混入

- 13 2.5T/3地盤 黄褐色土 10TR4/6地盤砂少し混入 小石、鉄分含
- 14 10TR4/3地盤 黄褐色土 10TR5/6地盤 黄褐色土 砂、10T/3地盤 黄褐色土ブロックなど
測定する(土等)
- 15 2.3T/2地盤 黄褐色土 2.5T/4オリーブ地盤 相應じる
- 16 10TR4/2地盤 黄褐色土 2.5T/3地盤 黄褐色土上面に 旧土状の色調
- 17 2.5T/2地盤 黄褐色土 小石混じる
- 18 10TR4/2地盤 黄褐色土 10TR4/6地盤 黄褐色土 砂混入 鉄分含
- 19 10TR4/2地盤 黄褐色土 同前 小石など混じる 後世埋土
- 20 7.5T/5/6地盤 黄褐色土 2.5T/3地盤 黄褐色土混入
- 21 5G/1地盤 黄褐色土 (2.5T/5地盤) 砂 粗い砂
- 22 2.5T/3地盤 黄褐色土
- 23 9T/4オリーブ 黄褐色 土側は 5T/6/4オリーブ 黄で砂含

0 1:60 2m

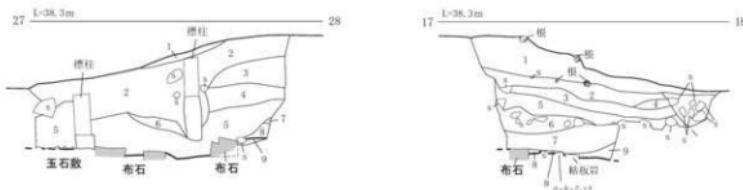
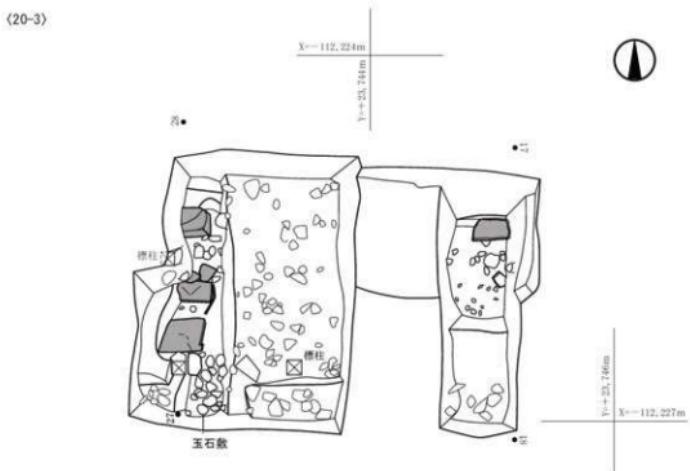
第5図 20-1平面・断面図

〈20-2〉



第6図 20-2平面・断面図

<20-3>

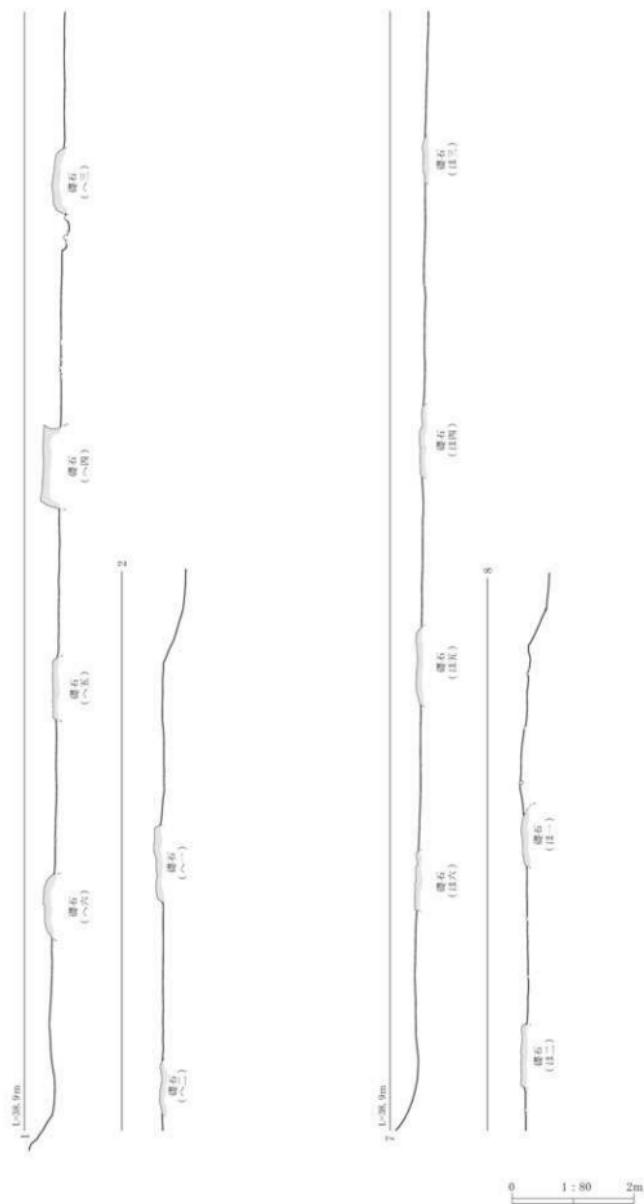


27-28

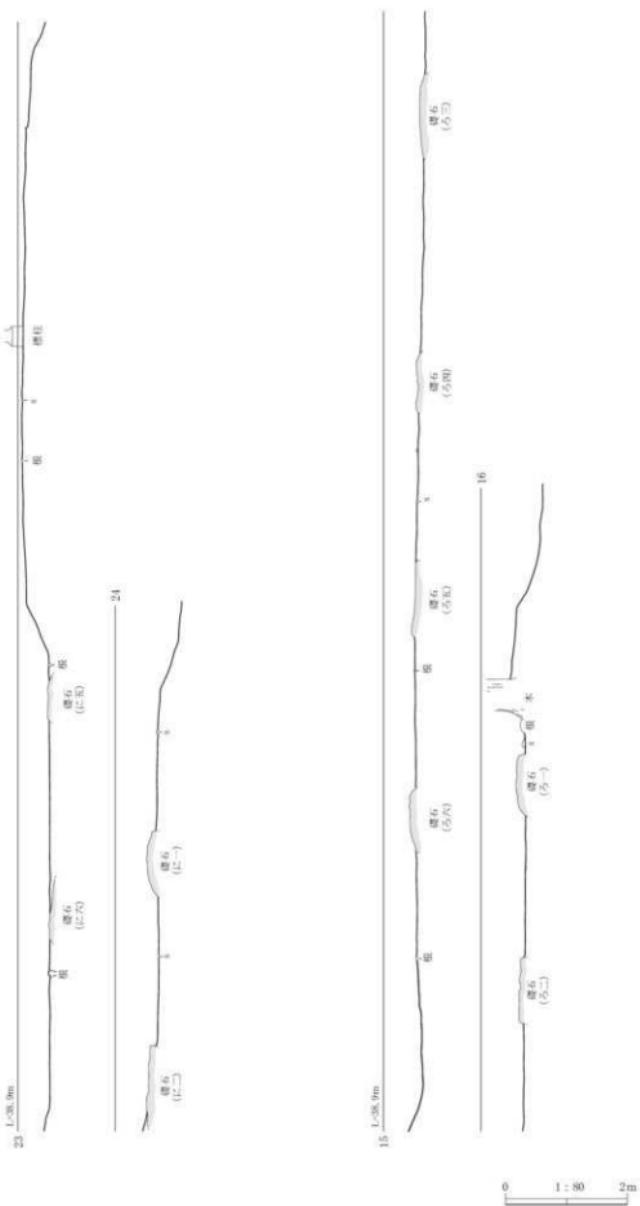
1. 2.5%明黄粘土
 2. 10YR4/3に5ない、黄褐色シルト 10YR4/3K黄褐色粘土 2.5Y7/3浅黄色ブロック混入
根多く
 3. 10YR4/4砂シルト～砂 極多く、根多く、下位に3Y7/3浅黄色粘土ブロック混入
 4. 10YR4/4砂シルト 砂含 木の根多い 10YR4/4褐や10YR5/4に5ない黄褐色粘土含
 5. 10YR4/3に5ない黄褐色シルト 砂含 10YR7/6明黄色粘土ブロック混入
 6. 2.5%明黄色粘土ブロック
 7. 2.5Y7/4浅黄色粘土
 8. 2.5Y4/1浅黄色砂 10YR5/6明黄色小粘土ブロック混入 5~10cm大的石含
 9. 10YR4/6褐色粘土 稲・小石含 (基盤底土)
1. 10YR4/3に5ない黄褐色シルト 表土～2.5Y7/4浅黄色の埋砂
 2. 10YR4/3に5ない黄褐色シルト 表土 2.5Y7/4浅黄色運土
 3. 2.5Y4/2浅黄色砂 10YR4/6褐色の鉱分集積
 4. 10YR3/3褐色砂 2.5Y6/4に5ない黄褐色粘土ブロック混入
 5. 2.5Y4/6オリーブ褐色 鉱分集積
 6. 2.5Y4/1オリーブ褐色
 7. 10YR7/3に5ない黄褐色砂 10YR5/6黄褐色砂 10YR7/6明黄色粘土ブロック混入
 8. 10YR5/8黄褐色粘土・砂含 鉱分集積
 9. 2.5Y5/1黄色砂 水分多く含 2.5Y7/4浅黄色粘土ブロック混入

0 1 : 40 1m

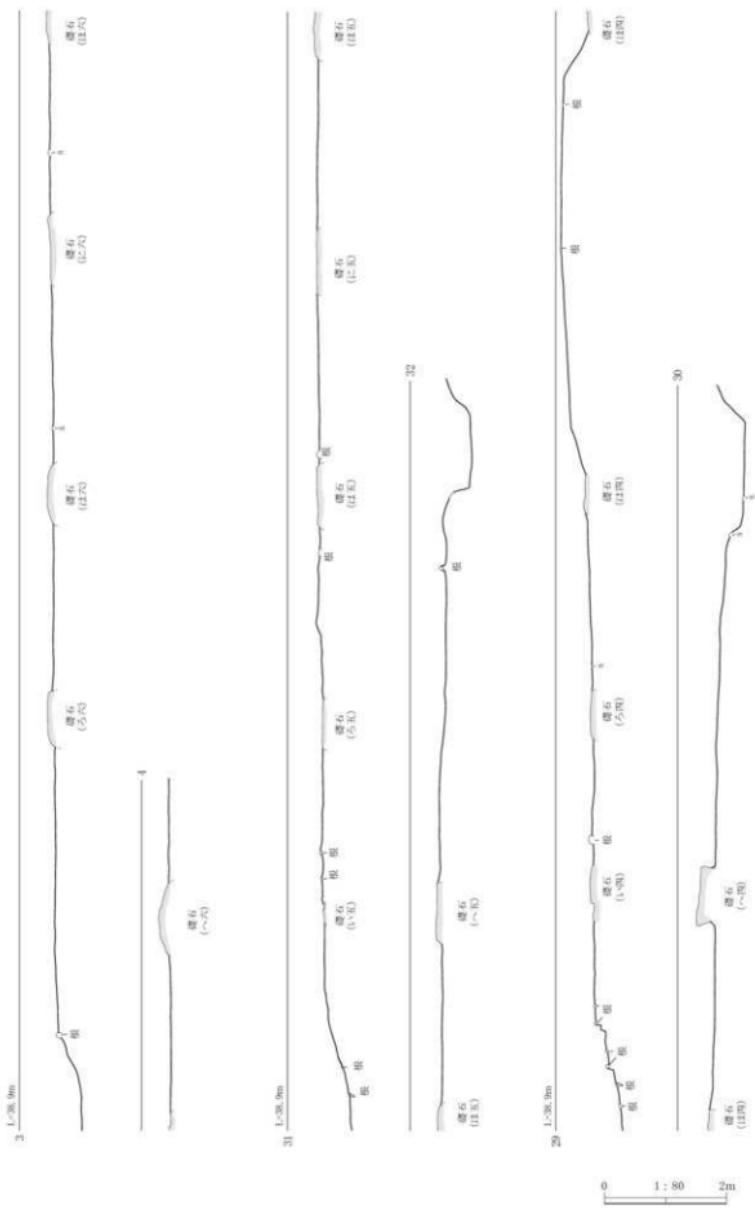
第7図 20-3平面・断面図



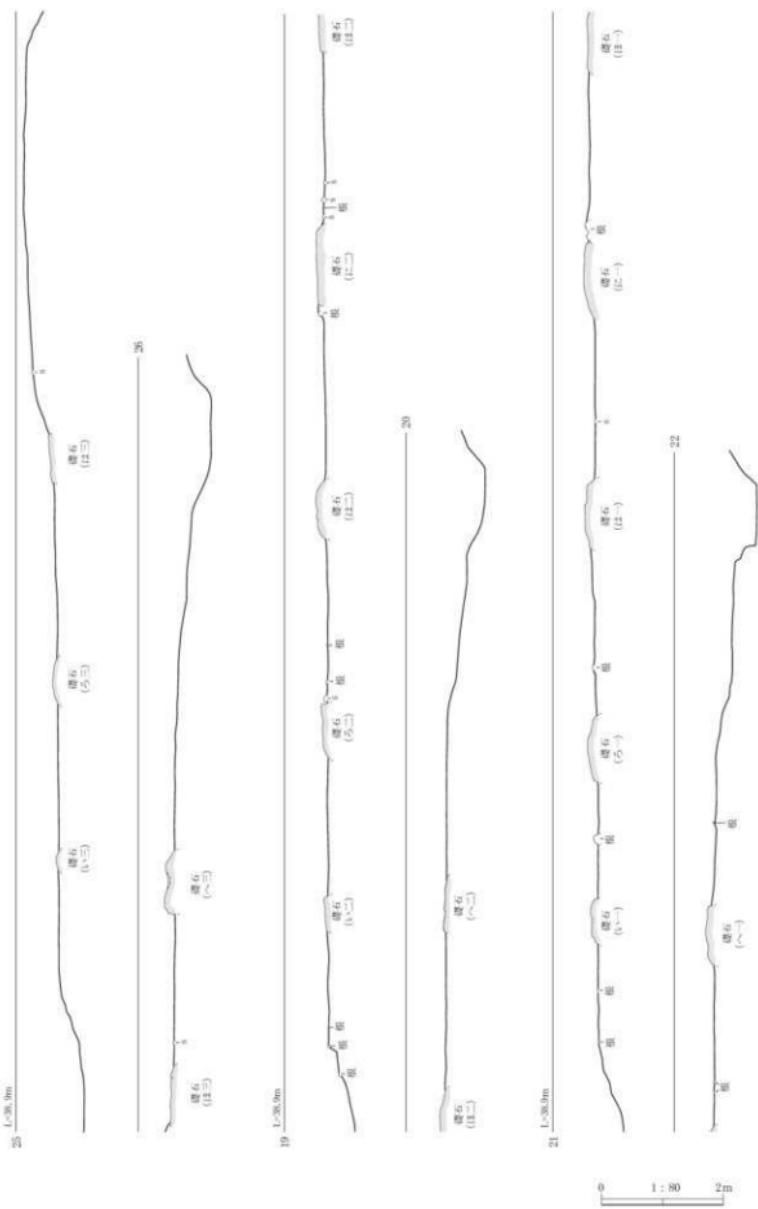
第8図 基壇 横断図 (1)



第9図 基壇 横断図 (2)



第10図 基壇 横断図 (3)



第11図 基壇 横断図 (4)

(2) 20-2調査区

20-2調査区は講堂の北西側に設けており、角を外した南北方向と東西方向のトレンチに分けて調査を行っている。南北方向では基壇北面側を、東西方向では基壇西面の確認を目的としている。検出遺構は、北面と西面の基壇周りの布石、木製の基壇外装などである。基壇を廻る布石と北西の礎石（へ六）の距離は、北面で、礎石布石の中心から中心で4.2m、西面では3.1mである。

西面側では布石、地覆、その上に縦羽目板が検出していることで、基壇外装の様子が確認できた。布石は4枚が南北方向に並んでいる。この上の基壇側に寄せて角状の木材が延べられている。上にはやや外寄りに縦羽目板が3枚検出している。2枚は水が溜まった際に浮いてしまったため取り上げている（第12図2・3）。布石の大きさは、南北長さ23cm×東西幅13cm、長さ28cm×幅14cmを測り、この前後は調査区外に延びている。基壇側は地覆が上に乗った状態であり、布石の幅については全体を検出していない。表面の標高は37.63mである。地覆は、長さ83cm、幅12~14cm、厚さ8~9cmである。縦羽目板は地覆の南側に寄った箇所に検出した。地覆の向きからはやや斜めで、幅7cm程の板が3枚並んだ状態である。4次調査の結果とは異なる様子から割れていると思われ、板の厚さも痩せた状態である。また地覆の北側上には杭の様に上端が細くなっている材が検出している。4次調査記録にはないため、縦羽目板が残ったものと思われる。4次調査では羽目板が並んで図化され、写真にも載せているが20次調査段階では多くが失われている様子である。

北面でも基壇周りの布石が整えられ東西方向に設置されている。中央の布石は全体が現れていて長さ33cm、幅は20cmである。この布石から20~26cm北側に、やはり板状に加工された粘板岩が崩れた状態ではあるが検出した。基壇周囲の布石の標高は37.65mで、20次調査範囲では一番高い。現状の基壇上面とは79cm程度の高低差である。布石と外側の粘板岩との間は雨落溝と考えられ底面標高は37.55m程度である。

一番外側では3~6cm大の玉石が面的に敷かれ埋め込まれた状態であり、ここの標高は37.6m程度である。雨落溝の底よりも数cm高くなっている。

基壇まわりの布石に一部乗った状態の地覆と思われる木質部は殆ど土の様な状態で、西辺と比べ沈下している。20-2に関係した遺構の標高は以下の通りである。

礎石（へ六）: 38.58m

西面--- 布石: 37.63m 地覆37.70 ~ 37.73m

北面--- 布石: 37.64m 地覆37.55 ~ 37.64m 雨落溝底: 37.54 ~ 37.57m

玉石敷き 37.56 ~ 37.63m

(3) 20-3調査区

講堂跡南面の階段東側の部分と、2m程度東に離れた箇所を調査し、階段や基壇周りの状態を確認した。調査時に検出した角杭状のコンクリートは、5次調査後に階段範囲を示した標柱と思われるが、保護するためと考えられる埋土によって現在は確認できない箇所もあり、その範囲は曖昧になっている。基壇北側や他周辺にも標柱は確認できるが、後世に土圧などの影響を受け移動してしまっている可能性がある。20-3調査区の南側に接しては拝観順路となっており、厚く盛土されている様子がうかがえる。現状から20cm下からも玉石敷が検出されたがこれは後世に行った保護のための処置と思われる。

階段東側は礎石（い三）の南側に位置し、基壇端から南に2m程の範囲を調査した。基壇周りと接する、階段の取り付きと考えられる箇所に、大きく厚い布石が使われている。南の側面は露出し、基壇側は土に埋まった状態である。27cm南に次の板石が置かれていて、さらに南にも設置されている

事から、南北に3個の布石の配置がある。この配置は4次調査と同様で階段の出と思われる。基壇周りと南の布石の中心から中心の距離は94cmを測る。個々の布石は、検出範囲で、基壇周りである北側から順に、東西の長さ17cm×南北の幅26cm、同じく24×17cm、同じく27×27cmである。高さは基壇側で一番高く標高37.35m、次は37.24mであるが、割れて上部が北側にスライドしている。南の板石は37.27mで、南に検出している玉石敷きの面とはほぼ同じ高さとなっている。玉石の大きさは10cm大である。現状の表面よりも50cm程度下がった位置で検出している。玉石敷は先端の布石から南側は締まっているが、布石の間などでは密度が落ち、標高も3cm程度低くなっている。

断面27-28の北側9層は、明らかに埋戻土とは異なり、基壇盛土の層と考えられる。7・8層も、周辺の層位とは異なり、層位状の堆積を示す。基壇の可能性もあるが、8層が5層の下位にある土と似ている事、範囲が狭い条件もあり判断が難しい。

東側の調査箇所では、基壇周囲の布石を1箇所で検出している。大きさは東西長さ28cm×南北幅16cmで、標高は37.27mである。40cm外側に粘板岩を検出しているが、元の位置からは移動していると思われ、雨落溝については不明である。周辺には玉石敷を確認しているが階段側と比べ閑散としている。大きさも統一されておらず、2~3cm程度から10cm程度である。標高は37.17~37.24mで基壇側に向かって僅かに上がっている。周辺の礎石と、検出遺構の標高は以下の通りである。

礎石（い三）：38.24m

階段側---布石標高：北から37.35、37.24、37.27m 玉石敷標高：37.26~37.30m

東側---布石標高：37.27m 玉石標高37.17~37.24m

4 出土遺物

4・5次調査の再調査であることから、出土遺物は遺構に伴うものではない。ただ調査時にほとんどの回収されていると思われたかわらけは、破片ではあるが、コンテナ1箱程出土した。埋土中からであり、本来どの箇所からの出土であったかは不明である。

同じく、おそらく布石などに使用していたと思われる板状に加工された粘板岩の破片も出土している。一部資料として回収したが、埋め戻しの際に土と一緒に戻している。

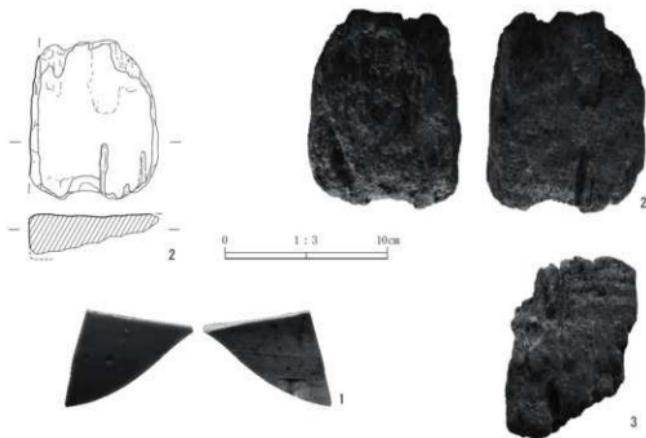
他に金属製品、木製品、ガラス、近世の瓦等も出土した。年代は不明であるが、2cm大の板状の鉄製品は、一方が割れて断面が見えている。錫びていてどのような製品かは不明である。棒状の木製品2点は、両方4×6mmの角状で長さは7cm程度である。他に木片は数点出土したが、枝状、角材状でも割れているもの、鉗くず状、樹皮などで、所在や年代は不明である。

5まとめ

20次調査は、昭和32・33年（4・5次調査）の再調査で保存修理の資料収集、確認を目的としている。今回の調査で4・5次調査図面に座標値が与えられた点は大きく、周辺や全体の整備を考える上で重要な資料を得た。

布石の確認では昭和の調査と同様の成果として南東側が北西側に比べ（20-2北面37.64mと20-3階段側37.35mから）0.29m程低い事が確認できた。

新たな所見として北西の調査では崩れた様子であるが雨落ち溝の外周と思われる板石を検出したことである。この外側の平面には玉石が敷き詰められていることも同様である。固く締まった状態であり、検出状況は良好である。20-3調査では周辺の玉石敷きの石が、20-2背面側より大きく、同じく敷き固められていた。20-2北面の布石の標高は平均37.6m、20-3南面では37.3mとして0.3mの高低差がある。狭い範囲の調査であったが、周辺は玉石敷きであったことを確認できた。



第12図 出土遺物

出土遺物観察表

〔 〕 残存値

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	種類	器種	部位	年代	登録No
1	-	○	20-3 埋土	磁器	肥前	壺	胴	18c ~	24

No	図版	写真図版	出土位置・層位	種別	種類	形状	法量(cm)			登録No
							長さ	幅	厚さ	
2	○	○	20-2西側	木製品	羽目板	板状	[9.8]	[7.8]	2.8	37-1
3	-	○	20-2西側	木製品	羽目板	板状	[11.5]	[8.2]	[1.9]	37-2



写真図版 1 講堂跡北西側（北西から）



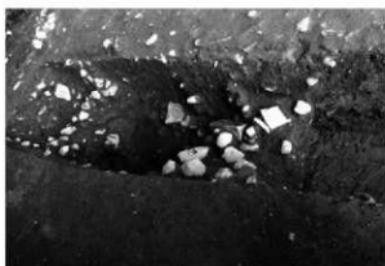
20-1 全景（南西から）



調査状況（西から）



礎石（へ-三）下の状況（西から）



基壇外周（南西から）



基壇盛土状況（西から）

写真図版2 20-1



20-2 全景（東から）



基壇外装の状況（西から）



地覆と雨落溝の状況（西から）

写真図版3 20-2 基壇北面



写真図版4 20-2 基壇西面



20-3全景（北東から）



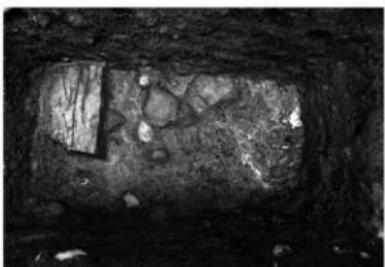
南面階段東辺（東から）



基壇南面東側（西から）



南面階段東辺（南から）



基壇南面東側（西から）

写真図版5 20-3



調査前状況（南から）



講堂跡全景（南東から）



中央の状況（東から）



北側の状況（東から）

写真図版6

無量光院跡第48次発掘調査

1 調査要項

地 点 平泉町平泉字柳之御所157-1
 調査面積 114 m²
 調査期間 5月31日～7月17日
 原 因 住宅建築
 調査担当 鈴木江利子

2 遺跡の位置と概要

無量光院跡は奥州藤原氏三代の秀衡が建立した寺院跡である。北に猫間が淵、東に伽羅之御所跡が接し、猫間が淵の北から東にかけては柳之御所跡が位置する。調査箇所はJR平泉駅からは約500m北に位置し、史跡としての無量光院跡からは道路を隔てた東に隣接している。本調査は周知の遺跡の無量光院跡である。

県道に面し元々建物のあった箇所であることから、擾乱も多く近世から現代の陶磁器なども多く出土した。特に東側は擾乱が重なっているが、後世の盛土が厚いことで、12世紀の遺構や遺物も残されていた。地形は西側から東側に向かいやや下がっているが、西側にも浅い状態ではあるが土坑や溝を検出している。



第1図 位置図

3 調査成果

検出遺構……柱穴33個 挖立柱建物跡2棟 土坑3基 溝跡6条

(1) 柱穴・掘立柱建物跡

柱穴

埋土に縛まりがない状態で近世から現代の柱穴が多い印象である。柱痕跡を伴う深い掘り込みやかわらけの出土状態などから12世紀あるいは中世と考えられる柱穴もある。現代の柱跡あるいは搅乱だったことから欠番とし番号を抜いている。P16・17は近代以降の遺構と思われるが、2か所をつなぐ軸方向が現代の建物に合うことから、例外的に残している。軸方向はやや西に傾いた南北方向にあり、搅乱としている基礎跡と同様に現在の道路に沿う方向にある。遺構面直上まで搅乱や近代以降の盛土があり、現表土から浅い位置の遺構は同層での確認となり、年代の判断は困難である。西側のP18・19・21は、深さもあり、12世紀の柱穴の可能性があるが、建物の構成主体は調査区外にある。

柱穴からの遺物はかわらけの小片が主で、P28など5号溝周辺からは量が多く、他に瓦や土壁の出土があった。

1号掘立柱建物跡

調査区南東側にあり、構成する柱穴は口径が小さい割りに深い傾向がある。柱穴間隔は、南北が2.2～2.3mで、東西が1.65～1.7mである。5号溝と軸方向が近い事や埋土などの状態から12世紀と考えている。

2号掘立柱建物跡

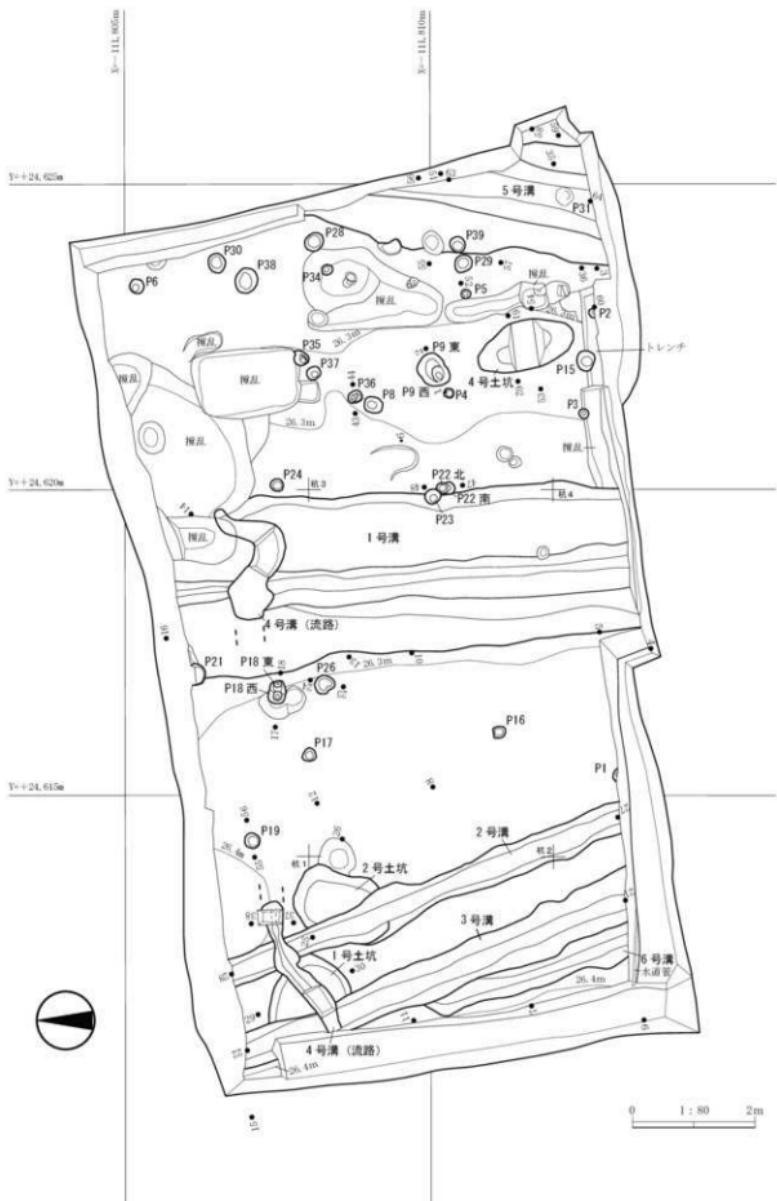
調査区の東側に位置する。柱穴間隔は南北2.5m、東西は2.0mである。南辺の中央にP9があるが規模や埋土の違いから、同建物の構成とは考えていない。北側や南側に延びる可能性があるが後世の遺構や搅乱と重なり消失したことも考えられる。1号掘立柱建物跡と重なる位置であるが、当建物跡も柱穴の状態から比較的古いと考えられ、新旧は不明である。

表1 柱穴観察表

[] 検出値

No.	平面形	大きさ(cm)		深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物	No.	平面形	大きさ(cm)		深さ(cm)	底面標高(m)	出土遺物
		幅方	柱痕跡						幅方	柱痕跡			
1	円	22×[8]	—	18	26.22	かわらけ	22(北)	円	19×17	—	19	26.01	
2	円	13×[10]	—	42	25.90		22(南)	円	20×[11]	—	15	26.06	かわらけ
3	円	16×16	—	28	26.19		23	椭円	26×25	12×10	23	25.98	
4	円	17×16	—	31	25.99	かわらけ	24	円	21×20	—	12	26.12	
5	円	16×15	—	29	25.98		26	椭円	35×20	12×8	21	26.06	かわらけ
6	円	24×23	—	18	26.19		28	椭円	33×28	—	46	25.73	かわらけ
8	椭円	33×26	—	17	26.14	かわらけ	29	円	32×28	—	47	25.83	かわらけ、瓦
9(西)	円	26×[23]	—	32	26.00		30	円	32×28	—	18	26.08	不明土製品(小片)
9(東)	椭円	57×44	—	28	26.06		31	円か	30×[12]	12×8	23	26.03	かわらけ
15	椭円	42×29	—	17	26.14	かわらけ	34	円	18×16	—	27	25.85	かわらけ
16	正方形	20×20	12×10	7	26.31	かわらけ	35	円	28×24	12×10	63	25.66	かわらけ
17	不整形	24×22	16×14	4	26.32		36	椭円	24×20	8×8	28	26.00	
18(西)	円	28×[22]	—	45	25.90	かわらけ	37	円	23×21	—	27	26.00	
18(東)	円	28×[15]	—	40	25.92	かわらけ	38	円	41×38	16×14	13	26.12	
19	円	25×23	16×12	51	25.90	かわらけ	39	円	27×26	—	21	26.08	土壁、瓦
21	円	36×[25]	—	50	25.74	かわらけ							

遺構名	軸方向	構成	構成柱穴
1号掘立柱建物跡	N 9° E	南北2間×東西1間	37.34.4.5.3.2
2号掘立柱建物跡	N 8° E	南北1間×東西2間	24.35.28.23.29



第2図 全体平面図

(2) 土坑

1号土坑

調査区北西に検出している。径は1.4mの円形で、西側は3号溝に切られている。検出状況は、かわらけの細片を主としてちりばめられた様子で、遺構が浅い割にはかわらけが多く出土した。遺物の状況から12世紀の遺構の可能性がある。

また4号溝が1号土坑を切っているが、4号溝の上面が陥没したのちの堆積とを考えると、4号溝が新しいとは言い切れない。出土遺物も、遺構の境からが多く、正確にはどちらからの出土になるのか判断に迷う。

かわらけは9号袋1袋程度出土している。ふいごの羽口細片1点、鉄滓小片3点、瓦は4号溝の境から2点出土した。

2号土坑

調査区北西側に位置する。浅いため径は不明瞭であるが南北方向にやや長い楕円形である。2号溝に切られている。かわらけの小片を少量出土した。年代については、畑の層を切っていないことや、埋土に縮まりがあることなどから12世紀の可能性がある。

当土坑東脇に滲みがあり、埋土は周辺の地山上の暗い褐色の堆積層であるため、遺構とは判断しなかった。

4号土坑（落とし穴）

調査区南東に検出している。長径1.6m短径80cmの楕円形状である。断面はU字から逆台形状である。埋土の上層中央は褐色を呈し下層は地山に似る明黄褐色で、鉄分の集積が所々にある。色調や埋土の縮まった状態などから绳文時代の落とし穴と思われる。

かわらけ小片を1点出土しているが、現代と思われる杭穴状跡が周辺に多数あり、この影響かと考えられる。

遺構名	検出規模 (m)	平面形	深さ (cm)	検出標高 (m)	底面標高 (m)	出土遺物
1号土坑	1.4 × [0.9]	〔円形〕	15 ~ 19	26.33 ~ 26.37	26.18	かわらけ 瓦 鉄滓 ふいご羽口
2号土坑	1.1 × 1.6	楕円形	7 ~ 14	26.34 ~ 26.41	26.27	かわらけ
4号土坑	0.8 × 1.6	楕円形	72 ~ 78	26.32 ~ 26.37	25.54	かわらけ

(3) 溝跡

1号溝

調査区中央に南北方向に延びている。検出長7.5m、幅は2.5 ~ 3.0mで肩が緩く広く開いている。中央に30 ~ 80cm幅の溝が掘り込まれている形をしている。深さは20 ~ 30cmで、深いが浚渫の掘り込みの影響から側面側は先に埋められた様子を示す。埋土は縮まりがなく柔らかい状態で、周辺の地山も水分を吸って柔らかい。この溝から東に擾乱が多いことなどから、近世からの境界のような役割であったと考えられる。

出土遺物はかわらけ小片少量、釘状の欠損した鉄製品、土壁状であるが1cm大と小さいため判断できない破片5点、近現代の磁器2点を出土した。

2号溝

2号溝と3号溝は並行して調査区西側に延びている。検出距離、軸方向も同じであるが、3号溝の方が10cm以上深く掘り込まれていて、規模がやや大きい。埋土は、黄褐色または浅黄粘土ブロックが多く混じる状態で3号溝と似ている。

かわらけは小片で9号袋半分程度出土した。鉄製品は枝状に分かれているがどのような製品かは不

明である。12世紀や近世と考えている遺構の軸線と方向が異なり、年代を示す遺物は出土していない。無量光院側から流れ込んでいると考えているかわらけを含む周辺の地山直上の層を切っていること、2号土坑より新しい事から12世紀以降と思われる。

3号溝

中層は黄褐色からにぶい黄褐色で、2号溝と似た埋土である。底から壁にかけては褐色からにぶい黄褐色で色調はやや暗くなっている。周辺最下層からの流れ込みの様相を示す。

擾乱の影響が少ないと想われる南壁の断面では、溝の幅は1.1mで深さは36cmである。底の標高は、2号溝は26.3m前後でほとんど勾配を示さないが、3号溝は南が26.12m、北側が26.22mで、南に傾斜している。2号溝と直接の切り合いではなく、新旧関係は不明であるが、時期差は殆どない様に思われる。はっきりした年代は不明だが、2号溝と同じ様に、1号土坑を切っている事から12世紀以降で、埋土の状態や出土遺物からは近世には至らない時期である。

かわらけは小片ばかりで大きくても4~5cm程度である。9号袋1袋程度の出土量である。鉄滓2点、瓦は2~3cm大の破片のみ5点程度出土した。小破片であり瓦なのか確実でない物もある。溝の西肩周辺から古錢と思われる破片を出土しているが、摩滅が激しく年代等も不明である。

4号溝（自然流路）

調査区北西に検出している。1号土坑と2・3号溝に重なって、蛇行するが概ね東西方向に延びている。検出長は調査区西壁から2.4mで、幅は15~40cmである。深さは浅い東側で20cmであるが、他は底を検出していない。形状が整っておらず精査前でも西側調査区外から水が湧いてくる状況などから、自然の地下水路と思われる。

調査区中央北側に1号溝に重なって蛇行した箇所も、自然流路と思われる。確認できた箇所は2.3mの距離で、幅は20~76cmである。深さは30cm程度掘削しているが底は検出していない。今回は一連と考え、調査区西から東に向かう地下の自然流路としている。

当遺構の特徴として水が湧き、蛇行、陥没などから重複する遺構を切る形となって今まで続いている。当遺構の年代は古い可能性があるが、他遺構との新旧は不明である。

出土遺物はかわらけ少量、鉄製品、鉄滓である。鉄製品は釘が切断された様子の物であるが鋸びていて子細は不明である。0.5~1.5cmの棒から球状で、割れ口が確認できるが接合に至らない。

5号溝

調査区南東側に検出している。遺構西側上にはかわらけの小片を含む包含層を検出したが、直上の現代に埋めた碎石なども混じっている状態であった。検出長は5.0mで調査区外に続いている。幅は1.8~1.9m、深さは0.7m程度である。軸方向はN10°E前後で、南から北に底が低くなっている。断面形は概ね逆台形状であるが、北側では底がU字形で上部は緩く広がる薬研堀にも似た状態である。南側の断面では1・2・3・6層が掘り込み状を呈し、また砂も混入している事から、溝を掘り直し後に埋め戻された可能性がある。ただ北側の掘り込み痕跡が明瞭でないため、5号溝上に全て掘り込んでいる事ではなく、別遺構の重なりなのか不明である。

出土遺物はかわらけ、磁器、釘状の金属製品2点、土壁、土師器の小片4点、6cm大の鉄滓、1cm大のふいごの羽口片、瓦である。かわらけはコンテナ2箱程度の出土で、調査全体量の半分以上である。上層はロクロが多く、下層は手づくねが多い傾向がある。瓦は上層に集中している。下層出土の1点は、うろこ状に剥がれる他の物とは状態が異なっている。灰白色で胎土は緻密である。瓦の表面が剥がれる状態は無量光院跡33次や40次調査で出土した瓦と同じである。陶器は遺構直上の包含層からの出土で近世の物であり、直接遺構の年代には関わらないと考えている。

6号溝

調査区南西に検出している。平面での掘り込みは浅く、当初はかわらけ細片を含む遺物包含層と考えていた。南壁の断面5-6では両肩が開いた形状を示している。北側は調査区西壁側に向かうが凹凸が確認できなくなり溝の体をななくなっている。南から3.6m延びている。幅は検出面で30~60cmであるが南断面では1m程度ある。上方は現代の畠の土と同層と判断し削っているが、検出の深さは5cm程度である。南壁では層位が確認でき、20cm程度である。3号溝を切っている事から、近世の遺構の可能性もある。

遺構名	検出長(m)	幅(m)	深さ(cm)	検出標高(m)	底面標高(m)	軸方向	主な出土遺物
1号溝	7.5	2.5~2.9	20~30	26.20~26.24	25.98~26.03	N4°W	かわらけ 土壙 鉄製品 近現代細器
2号溝	7.0	0.4~0.62	2~12	26.35~26.44	26.28~26.34	N22°W	かわらけ 鉄製品
3号溝	7.0	0.5~0.8	17~29	26.36~26.48	26.12~26.22	N22°W	かわらけ 瓦 古銭 鉄滓
4号溝(西側)	2.4	0.15~0.4	17~30以上	26.38	[25.93]~26.18	蛇行	かわらけ 鉄製品 鉄滓
4号溝(北中央)	2.4	0.2~0.76	30以上	26.15	[25.76]	蛇行	
5号溝	5.0	1.75~1.9	65~70	26.21~26.31	25.58~25.68	N8°E	かわらけ 土壙器 瓦 ふいごの羽口 土壙 鉄製品
6号溝	3.6	0.30~0.60	3~12	26.42	26.30~26.33	N17°W	

(4) 出土遺物

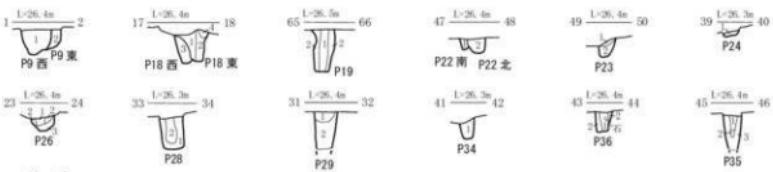
調査区は住宅の建っていた箇所であり、東側は地山直上まで近代現代の生活の影響が多くあった。調査区西側は畠の土が堆積し、保護層の役割となり、場所によっては遺物包含層が薄くではあるが残されていた。遺物包含層は地山直上の概ね暗褐色のかわらけ細片が混じる層で、厚い箇所でも10cmに満たない。この層は史跡側からの流れ込みと考えられ、12世紀かそれに近い年代である。また上にある畠の層にもかわらけの細片が混じった状態で、包含層として遺物を採取したが、中には近世の磁器等も含まれている。畠は近世から使われ、包含層も含み耕作されていた。

調査全体でかわらけはコンテナ4箱で半分以上は5号溝からの出土である。5号溝以外はほとんど小片か細片で柱穴や土坑、溝、搅乱からも出土した。須恵器を遺構外から小片1点であるが出土した。土師器は5号溝から4点、表土からも小片1点。陶器磁器は12世紀の須恵器系壺の小片を西側の包含層から1点出土した。他は近世の物で占められる。瓦は西側の3号溝からも出土しているが、5号溝から集中して出土している。鉄製品や鉄滓は、他の遺物が5号溝から多い事に比べ、西側の遺構から出土している。また搅乱から出土した物は、近代から現代の物と思われる。ふいごの羽口は史跡との距離から考えて、流れ込んでいても良いと思われるが、小片5点である。土製品は主に搅乱からで鉢状、丸壺と思われる破片や近代と思われる達磨の根付状の物などである。遺構から出土しているものは小片で摩滅しているため子細は不明である。3号溝出土の古銭は円形で、径は2.5cm程度、穿孔は0.5cmと思われる。出土時点で緑色だったことから銅製品と判断したが劣化して薄くひび割れが多い状態であった。

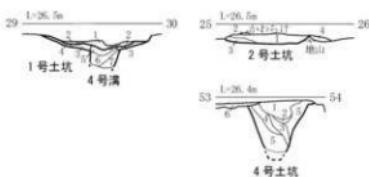
4まとめ

特別史跡無量光院跡に先行する遺構を無量光院跡東側の土壙外側で検出している。築地塀や溝跡、通路と思われる石敷き遺構で、この調査では、瓦や鉄滓、ふいごの羽口などが多く出土している。これらを埋める様にして無量光院跡の土壙は構築されている。この場所から道路を隔てた箇所に48次調査区が位置している。

2・3号溝は調査区東側にあり無量光院から一番近い遺構である。しかし軸方向が前記の溝や築地などとは異なり遺物も少なかった。4号溝は無量光院側から続いているかは不明であるが、重複する



I-2
1 10Y3/3黄砂シルト 10Y7/4にぶい黄砂粘土ブロック少量混入。炭化物含む
2 10Y4/4褐シルト 10Y5/6黄褐色粘土ブロック混入
17-18
1 10Y6/6明黄砂粘土 5Y7/2浅黄砂土ブロック。2. 5Y6/2(黄～2. 5Y6/4)にぶい黄砂
混入
2 10Y6/2にぶい 2. 5Y6/3オリーブ褐色土混入
3 10Y6/6明黄砂粘土 5Y7/2浅黄砂土ブロック。2. 5Y6/2(黄～2. 5Y6/4)にぶい黄砂
混入
4 炭化物含む



29-30
1 10Y6/4褐粘土 砂、鉄分。炭化物少含む(1号土坑)
2 10Y7/2灰黄砂粘土 砂。10Y4/4褐砂少含む(1号土坑)
3 2. 5Y6/2灰黄砂粘土 2. 5Y6/3灰黄砂粘土少含む(1号土坑)
4 2. 5Y6/2灰黄砂粘土 2. 5Y6/3灰黄砂粘土少含む(1号土坑)
5 2. 5Y7/2灰黄砂粘土 10Y5/6灰黄砂粘土ブロック。2. 5Y6/2灰黄砂粘土混入(4号坑)
6 2. 5Y6/3灰黄砂粘土ブロック 2. 5Y6/4明黄砂粘土混入(4号坑)
7 2. 5Y6/3にぶい黄砂 2. 5Y8/3浅黄砂粘土ブロック混入(4号坑)

25-26
1 10Y6/4褐粘土 砂。鉄分。上面にかわらけ含む
2 10Y6/4褐粘土 砂。炭化物含む
3 2. 5Y5/4にぶい黄砂砂 2. 5Y7/2灰黄砂粘土混入 鉄分含む
4 10Y6/3にぶい黄砂砂 2. 5Y7/2灰黄砂粘土混入(2号土坑)
5 2. 5Y7/2灰黄砂粘土ブロック 2. 5Y7/6灰黄砂粘土混入(2号土坑)

53-54 61-62共通
1 10Y6/4褐粘土 砂含む
2 10Y6/5褐粘土 砂含む
3 10Y6/4褐粘土 2. 5Y7/3浅黄砂粘土ブロックとそれを囲む分集塊。
部分的に炭化物含む
4 10Y6/4褐粘土ブロック 2. 5Y7/4にぶい黄砂粘土
5 10Y6/6明黄砂粘土 2. 5Y7/6灰黄砂粘土 2. 5Y8/20白粘土ブロック混入
6 10Y6/3にぶい黄砂砂 2. 5Y6/4にぶい黄砂シルトブロック混入(1層の上を覆う)

65-66

1. 10Y5/5灰黄砂粘土 2. 5Y5/2(灰)灰黄砂 2. 5Y7/4灰黄砂粘土ブロック少量混入。鉄分、炭化物含む
2. 2. 5Y5/3灰黄砂シルト 2. 5Y7/3灰黄砂粘土ブロック混入。砂、鉄分、炭化物含む

47-48

1. 10Y8/3灰黄砂シルトブロック 2. 5Y8/3灰黄砂粘土ブロック。
10Y8/3にぶい黄砂シルト混入
2. 10Y8/3灰黄砂シルトブロック 2. 5Y8/3灰黄砂粘土ブロック。
10Y8/4/6(2. 5Y5/4)灰黄砂シルト少量混入

49-50

1. 10Y8/3灰黄砂シルトブロック 2. 5Y8/3灰黄砂粘土ブロック混入
2. 10Y8/3灰黄砂シルトブロック 2. 5Y8/3灰黄砂粘土ブロック。
10Y8/4/6にぶい黄砂シルト混入

39-40

1. 10Y8/6灰黄砂砂 10Y8/6明黄砂粘土ブロック。10Y8/3にぶい黄砂粘土、
底に炭化物含む

23-24

1. 10Y8/4にぶい黄砂粘土 10Y8/3灰黄砂シルトブロック混入
2. 2. 5Y8/4にぶい黄砂シルト 10Y8/4にぶい黄砂シルト混入
3. 2. 5Y5/4灰黄砂 砂分含み粘性強 2. 5Y7/4浅黄砂粘土ブロック。
10Y8/1黒砂粘土少量混入

33-34

1. 10Y8/2灰白粘土ブロック 2. 5Y6/4にぶい黄砂混入
2. 10Y8/2灰白粘土ブロック 2. 5W/4にぶい黄砂、10Y8/3にぶい黄砂粘土混入
31-32

1. 10Y8/3にぶい黄砂砂 炭化物。かわらけ繊片含む
2. 2. 5Y7/5灰白粘土ブロック 10Y8/4にぶい黄砂シルトブロック。
10Y8/6明黄砂粘土混入

41-42

1. 10Y8/6灰黄砂粘土 10Y8/4褐砂。10Y8/2にぶい黄砂粘土ブロック混入

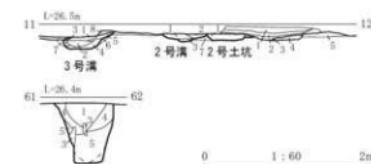
43-44
1. 10Y8/4明黄砂シルト 2. 5Y8/20白粘土、10Y8/3にぶい黄砂シルトブロック混入
2. 10Y8/6灰黄砂シルト砂 2. 5Y7/4浅黄砂粘土ブロック。
2. 5Y7/2灰白粘土ブロック混入

45-46

1. 10Y8/4褐粘土シルト～砂 2. 5Y8/2灰黄砂粘土ブロック混入 かわらけ繊片含む
2. 2. 5Y7/2灰白粘土 2. 5Y7/3灰白粘土ブロック混入 かわらけ
3. 2. 5Y7/2灰白粘土 2. 5Y7/3灰白粘土ブロック間に10Y8/6灰褐色。
縦に10Y8/3にぶい黄砂粘土混入

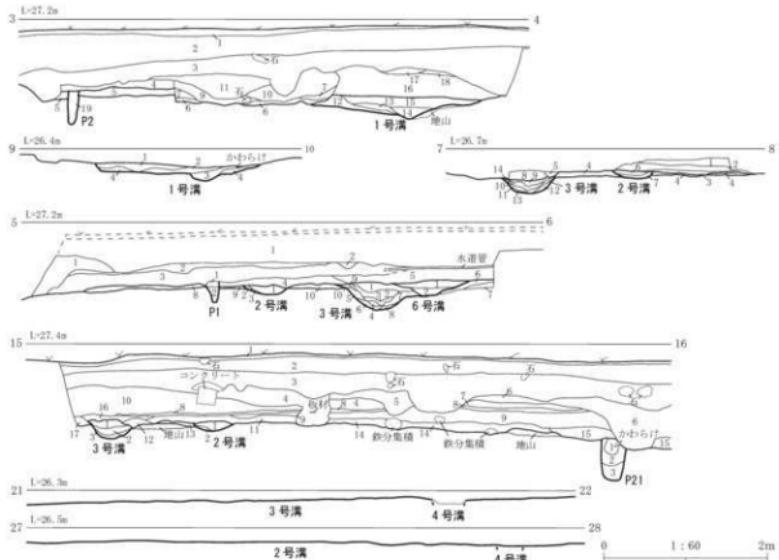
55-56

1. 10Y8/4褐粘土シルト～砂 2. 5Y8/2灰黄砂粘土ブロック混入 かわらけ繊片含む
2. 2. 5Y7/2灰白粘土 2. 5Y7/3灰白粘土ブロック混入 かわらけ
3. 2. 5Y7/2灰白粘土 2. 5Y7/3灰白粘土ブロック間に10Y8/6灰褐色。
縦に10Y8/3にぶい黄砂粘土混入



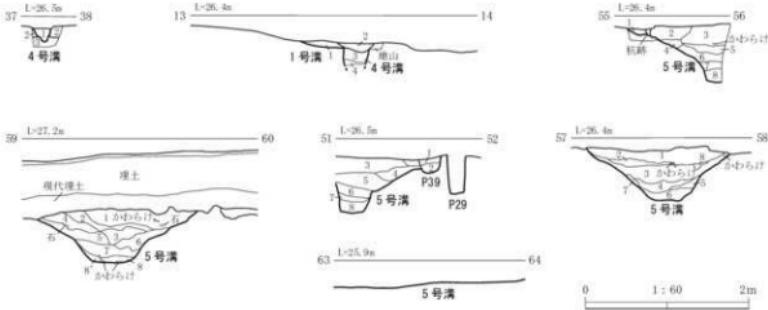
11-12
1. 10Y8/4褐砂～10Y8/4にぶい黄砂シルト混入 砂、鉄分、炭化物少含む
2. 10Y8/3にぶい黄砂シルト 2. 5Y8/3灰黄砂粘土ブロック混入 炭化物含む
3. 10Y8/4褐粘土シルト 10Y8/4褐砂ブロック。
4. 2. 5Y7/2灰白粘土ブロック 2. 5Y7/3灰白粘土ブロック混入
5. 2. 5Y7/2灰白粘土 2. 5Y7/6明黄砂粘土、2. 5Y4/2浅黄砂粘土少含む
6. 2. 5Y7/3灰白粘土シルト
7. 2. 5Y7/2灰白粘土～砂 10Y8/4/4シルト少含む(地山起因)
8. 10Y8/3にぶい黄砂シルト 炭化物少含む
9. 2号土坑 1. 10Y8/3/3にぶい黄砂粘土 10Y8/4にぶい黄砂粘土混入 砂含む
10号土坑 1. 2. 5Y5/3オリーブ粘土 2. 5Y5/4灰黄砂粘土ブロック。
2. 5Y8/2灰黄砂粘土ブロック混入 かわらけ片含む
2. 2. 5Y5/4灰白粘土 10Y8/4にぶい黄砂シルト混入
3号土坑 1. 2. 5Y7/2灰白粘土
2. 2. 5Y7/2灰白粘土
3. 2. 5Y7/2灰白粘土
4. 2. 5Y7/2灰白粘土
5. 10Y8/3灰白粘土 炭化物少含む
6. 10Y8/5/4(2. 5Y5/4)灰白粘土 2. 5Y5/4オリーブ粘土
7. 10Y8/4/3(2. 5Y5/4)灰白粘土 10Y8/5/4(2. 5Y5/4)灰白粘土混入 砂含む
8. 10Y8/5/4(2. 5Y5/4)灰白粘土 炭化物少含む

第3図 断面図（1）



- 3-4
 1 砂石
 2 10W4/5-6 黄鉄鉱 BT/2灰白粘土ブロック混入(産土)
 3 2, 3W2/1 黒鉄鉱 BT/4灰白粘土、砂ブロック混入 小縫多量含む(造成と住宅基礎埋立)
 4 10W4/4にぶい 黄鉄鉱土
 5 10W4/3 黄鉄鉱 BT/2灰白粘土 10W4/3にぶい 黄鉄鉱シルトブロック少量混入
 6 2, 5W2/1 黄鉄鉱 BT/2灰白粘土、砂ブロック混入 基礎底に砂ブロック混入(埋立)
 7 10W4/2 黄鉄鉱 鉄分、腐化物少量含む(埋立)
 8 10W4/2 黄鉄鉱 シルト 分分合む(埋立)
 9 2, 5W2/1 黄鉄鉱 黄土(シルト)
 10, 11 2号黒鉄鉱ルート 腐化物含む(埋立)
 11, 12 10W4/2洗黄鉄土ブロック 2, 5W2/1 黑鉄鉱シルトブロック混入(産土)
 12 10W4/2 洗シルト 10W4/2洗黄鉄土ブロック混入(1号側)
 13 10W4/4にぶい 黄鉄鉱 地下水くさびりなし(1号側)
 14 10W4/3 黄鉄鉱 BT/2灰白粘土ブロック混入(1号側)
 15 10W4/3 黄鉄鉱シルト 地下に 2, 5W2/1 黄鉄鉱シルトブロック混入(1号側)
 16 10W4/4にぶい 黄鉄鉱シルト 10W4/2洗黄鉄土、砂分で 10W4/2洗黄鉄土ブロック混入 腐化物含む
 17 5W2/1 黄鉄鉱 シルト 分分合む(埋立)
 18, 2号2/1 黑鉄 3T/4洗黄鉄土、砂ブロック混入 小縫多量、腐化物含む
 19 10W4/6明黄鉄鉱 BT/4砂粘土 2, 5W2/1明黄鉄鉱土ブロック
 10W4/6明黄鉄鉱土ブロック混入(2号)
 5-6
 1 砂石、埋め土等
 2, 3W2/4 黄鉄鉱 鉄分含む
 3 10W4/4にぶい 黄鉄鉱 地下水くさびり含む(耕作土か)
 4 10W4/4 黄鉄鉱シルト
 5 10W4/4(2, 5W2/1) 黄鉄鉱シルト
 6 10W4/3洗黒鉄シルト 10W4/4にぶい 黄鉄鉱土ブロック混入 腐化物含む、かわらけ含む
 7 10W4/4洗黒鉄土 10W4/5明黄鉄鉱土ブロック
 8 10W4/3洗黒鉄土 2, 5W2/1明黄鉄鉱土ブロック混入 かわらけ含む(遺物を含む)(埋立対応)
 9 10W4/3洗黒鉄土 2, 5W2/4洗黄鉄土ブロック混入
 10 10W4/4洗黒鉄土 2, 5W2/4洗黄鉄土ブロック混入 砂含む
 P1 10W4/4洗黒鉄土
 2, 5W2/1 黄鉄鉱土
 2号溝 1 10W4/4洗黒鉄土 2, 5W2/4洗黄鉄土ブロック多量混入
 2 10W4/4洗黒鉄土
 3 10W4/4洗黒鉄土 2, 5W2/4 黄鉄鉱 多量混入
 3号溝 1 10W4/3洗黒鉄シルト 2, 5W2/4洗黄鉄土ブロック混入
 2 10W4/5-42にぶい 黄鉄鉱~2, 5W2/4 黄鉄鉱
 3 10W4/6明黄鉄鉱シルト~2, 5W2/4洗黄鉄土
 4 2, 5W2/1 黄鉄鉱
 5 10W4/7-25にぶい 黄鉄鉱土 2, 5W2/7洗黄鉄土ブロック混入 腐化物少量含む
 6 10W4/6明黄鉄鉱土ブロック 10W4/7洗黄鉄土
 6号溝 1 10W4/6明黄鉄鉱土ブロック
 2 10W4/6明黄鉄鉱土
 7, 8 10W4/2 黄鉄鉱 地下水くさびり含む
 9 10W4/4洗黒鉄土
 10 10W4/4洗黒鉄土
 11 10W4/4洗黒鉄シルト
 12 10W4/4洗黒鉄シルト 2, 5W2/4洗白粘土ブロック混入 砂、鉄分含む
 13 10W4/4洗黒鉄シルト 2, 5W2/4洗白粘土小ブロック混入 腐化物、かわらけ含む
 14 10W4/4洗黒鉄シルト 2, 5W2/4洗白粘土ブロック混入 腐化物含む
 15 2, 5W2/4洗黒鉄シルト~砂 2, 5W2/4洗黄鉄シルトブロック混入
 16 10W4/4(2, 5W2/1) 黄鉄鉱シルト
 17 2, 5W2/4洗黒鉄土 5T/7 4洗黄鉄土ブロック混入 腐化物少量含む
 3号溝 2, 5W2/4(オリーブ) 洗黒鉄土 2, 5W2/6明黄鉄鉱土ブロック混入 砂、腐化物少量含む
 2, 5W2/1 黄鉄鉱シルト 2, 5W2/5明黄鉄鉱土ブロック混入
 2号溝 1 10W4/6明黄鉄鉱土ブロック 10W4/3洗黒鉄シルト混入
 2 10W4/6明黄鉄鉱シルト 砂含む
 P21 1 10W4/2洗黄鉄土 2, 5W2/4洗白粘土ブロック 2, 5W2/4洗黄鉄混入 腐化物含む
 2 2, 5W2/4洗黄鉄土ブロック 2, 5W2/4洗黒鉄土混入
 3 2, 5W2/4洗黄鉄土ブロック 2, 5W2/4(2) 黄鉄鉱土混入

第4図 断面図(2)



37-38

- 1 2.517/4黄粘土ブロック 10Y8/3にぶい黄粘土混入 砂。炭化物。
1 層にかわらけ縫片含む
2 層と3層に同 2.515/4黄砂混入(地山起源)

3 2.515/4黄砂(地山起源)

13-14

- 1 2.517/4黄粘土ブロック 10Y8/3にぶい黄粘土混入 3層の砂、
炭化物。一部にかわらけ縫片含む(1号墓)
2 10Y8/4(2)黄砂シート(4号墓)
3 10Y8/4(4)シート 2.518/3底黄粘土ブロック。
2.516/6明黄砂粘土ブロック混入(4号墓)
4 10Y8/4(3)にぶい黄粘土 砂含む(4号墓)

51-55-56共通

- 1 10Y8/3(2)にぶい黄粘土 粒度に2.517/4洗黄粘土混入(複数か)
2 2.517/3洗黄粘土ブロック 2.517/6明黄砂。10Y8/4にぶい黄粘土～砂混入
炭化物。かわらけ片含む
3 2.517/3洗黄粘土ブロック 2.517/6明黄砂。
4 10Y8/4(3)にぶい黄粘土～砂混入 砂含む
5 2.517/3洗黄砂 2.516/6明黄粘土ブロック混入 砂分より多く含む
6 2.517/4黄砂 2.516/6明黄粘土ブロック。
7 2.516/6明黄砂 2.518/3底黄粘土ブロック混入 砂 分多量含む
8 2.515/3黄砂 砂化物多量含む
P59 1 10Y8/4(2)にぶい黄粘土 2.517/4洗黄粘土ブロック混入。
2 2.516/6明黄砂シート 2.516/6明黄砂シートブロック。

西寄りに10Y8/4砂シート多く混入

59-60

- 1 10Y8/7灰黄粘土 10Y8/6黄砂、513/2底黄シルト混入
2 10Y8/4(3)にぶい黄砂シート 2.513/4洗黄粘土ブロック混入 砂。かわらけ片、
炭化物含む

- 3 2.517/3底黄粘土 10Y8/5(6)底黄砂粘土ブロック混入 砂含む
4 2.518/6(6)底黄粘土ブロック 10Y8/5(4)にぶい黄砂シルト混入 砂含む(層に組む)

- 5 10Y8/5(4)にぶい黄砂粘土ブロック 砂含む
6 2.516/6(2)底黄粘土 2.516/2砂 砂方に多く 2.517/6明黄粘土ブロック。
10Y8/4(3)にぶい黄砂混入 砂分含む

- 7 2.517/2底黄粘土 2.517/2灰黄砂。6層下に多く 10Y8/2底黄砂混入 砂分含む
8 517/2白粘土 砂 2.516/1底砂混入
9 2.517/2黄粘土 砂 砂分含む

57-58

- 1 10Y8/4(3)にぶい黄砂シート 2.517/4洗黄粘土ブロック。
底層に 517/2底黄粘土ブロック混入 砂含む
2 2.517/3底黄粘土 10Y8/4(3)にぶい黄砂、2.513/4底黄砂混入
3 10Y8/5(4)にぶい黄砂粘土 砂 2.516/3底黄砂、2.517/4明黄粘土ブロック混入
砂分 含む
4 2.515/2底黄砂～砂 2.516/2底黄粘土ブロック混入 砂化物含む
5 2.517/4洗黄粘土～砂 砂分含む
6 2.517/2底黄粘土 2.517/2灰黄砂、10Y8/4(3)底黄砂混入 砂分含む
7 2.518/6(3)底黄砂
8 10Y8/5(4)にぶい黄砂粘土 10Y8/5(4)にぶい黄砂混入

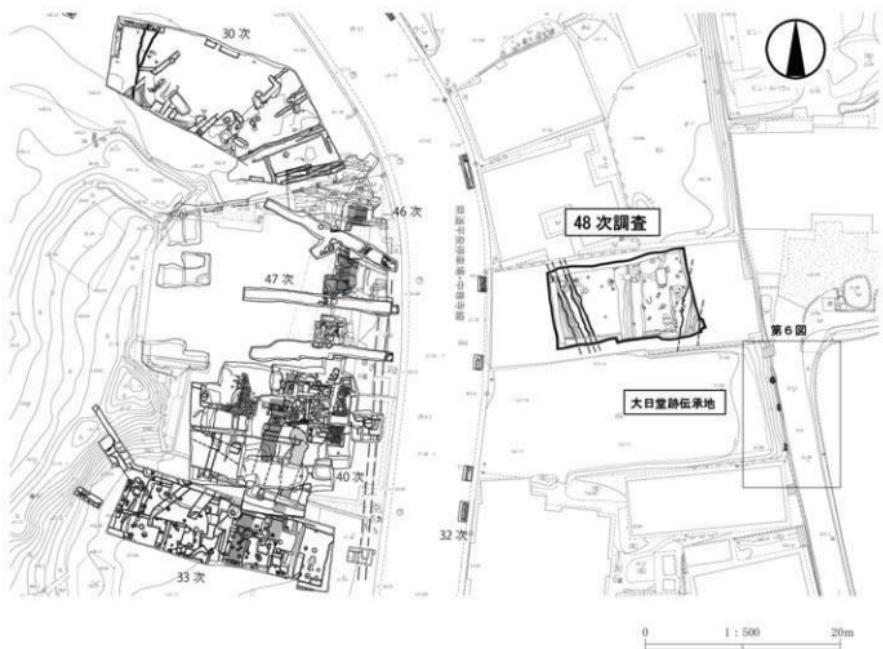


第6図 大日堂跡東側平面図

1号土坑と合わせて鉄滓や瓦などの遺物を出土している。

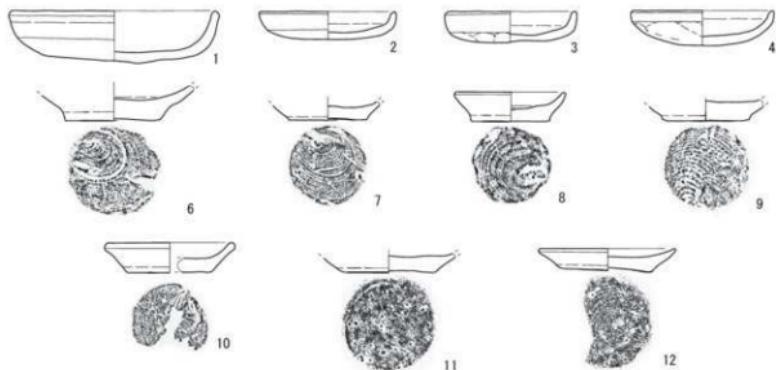
今回の調査では5号溝は出土遺物から12世紀と考えられる。軸方向は検出範囲が限られていたが、無量光院跡の本堂や中島の建物のN7~8°Eに近く、無量光院の影響を受けていると考えられる。また出土している瓦については、表面が剥がれやすくもろい状態で、前述の石敷き上から出土した瓦と同じ様相を示している。また当調査区周辺からの流れ込みの可能性もある。

調査区南側は大日堂跡と伝承される箇所で、戦後までは標柱のあった事を記憶する方もおられる。現在は何も示すものはないが、土地の側面に大きい石が露見している(6・7図)。土留めに用いた様子であり、位置は動いていると思われるが、大日堂の礎石の可能性として加えたい。伽羅之御所1次調査区は500m程東にあるが、かわらけが多く出土し、小規模面積の割りに瓦が多く出土している。報告書では瓦について大日堂の屋根を葺いた可能性などを推定している。

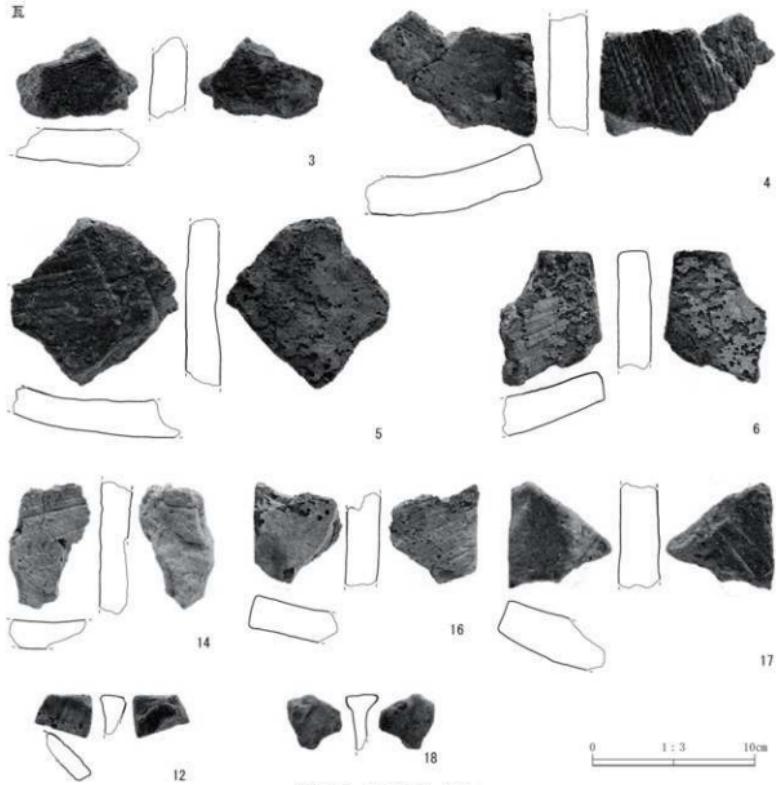


第7図 遺構配置図

かわらけ



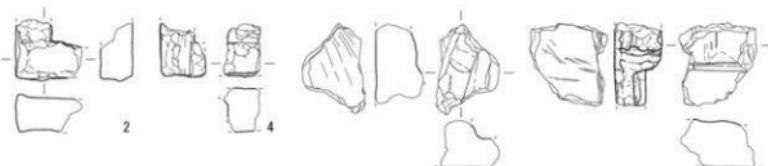
瓦



第8図 出土遺物 (1)

0 1 : 3 10cm

土壁



鉄製品



0 1:3 10cm

第9図 出土遺物(2)

表2 かわらけ観察表

No	国版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量(cm)			残存率(%)	年代	備考	()推定値	登録No
					口径	底径	器高					
1	8	5	5号溝下層	手づくね大	13.0	-	2.9~3.5	90	12c	スノコ痕 摩滅	191	
2	8	5	5号溝	手づくね小	8.2~8.5	-	1.4~1.8	85	12c	スノコ痕 摩滅	215.218	
3	8	5	5号溝南端下層	手づくね小	8.2	-	1.6~2.1	80	12c	指痕 摩滅	223	
4	8	5	5号溝南端下層	手づくね小	8.8	-	1.8~2.2	80	12c	指痕 摩滅	224	
5	-	5	P16	手づくねか	-	-	-	-	12c	外表面に津付着	25-1	
6	8	5	P35上面	ロクロ大	-	5.7	-	50	12c	内面に沈殿 紙コ痕 摩滅	144	
7	8	5	5号溝	ロクロ小	-	4.8	-	60	12c	底部のみ	173	
8	8	5	5号溝	ロクロ小	(6.8)	4.8	1.8	70	12c	反転実測 摩滅	210	
9	8	5	5号溝	ロクロ小	-	5.3	-	60	12c	反転実測 底部のみ 摩滅	221.3	
10	8	5	5号溝	ロクロ小	(8.0)	1.8	(5.1)	50	12c	反転実測 摩滅	181.222.3	
11	8	5	5号溝上層	ロクロ小	-	5.6	-	70	12c	底部のみ 摩滅	207	
12	8	5	5号溝上層	ロクロ小	8.4	5.5	1.1~1.6	60	12c	摩滅	208	

表3 国產陶器観察表

No	国版	写真図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	-	-	調査区西部 遺物包含層上面	須恵器系	壺	肩部か	12c	外面にタキ	27

表4 須恵器観察表

No	国版	写真図版	出土位置・層位	器種	部位	年代	備考	登録No	
1	-	-	調査区西部 遺物包含層上面	須恵器系	壺	肩部か	平安	外面タキか	27

表5 瓦観察表

No	国版	写真図版	出土位置・層位	種類	法量(cm)			重量(g)	備考	登録No	() 残存値
					長さ	幅	厚さ				
1	-	-	5号溝南側上面	不明	-	-	-	18.2	小7片 織目	151.2	
2	-	-	調査区東側サブトレンチ 5号溝上面	不明	<3.0>	<1.6>	<1.7>	18.9	2側	131.3	
3	8	5	5号溝南トレンチ上層	平瓦	<5.1>	<7.8>	2.2	81.9	12c 四面に布目 摩滅	164.3	
4	8	5	5号溝ベルト上層	平瓦	<8.5>	<10.3>	2.5	240.7	12c 四面に布目 凸面に織目 摩滅	164.7.197	
5	8	5	5号溝ベルト上層	平瓦	<10.6>	<10.4>	2.2	213.2	12c 四面に糸切痕 摩滅	196	
6	8	5	5号溝ベルト上層	平瓦	<8.4>	<6.6>	2.3	130.8	12c 四面に布目、糸切痕 摩滅	198	
7	-	-	5号溝ベルト上層	不明	<3.4>	<2.1>	<0.5>	5.0	小片 摩滅	199	
8	-	-	5号溝ベルト上層	不明	<3.5>	<1.8>	<1.3>	6.4	小片	205.2	
9	-	-	5号溝南延張区上層	不明	<3.0>	<1.7>	<0.5>	2.4	小片 織目	206.3	
10	-	-	5号溝上層	不明	<3.2>	<2.2>	<0.9>	7.5	小片	234.2	
11	-	-	5号溝 上面から35cm	丸瓦か	<2.5>	<2.3>	1.3	7.3	織目 布目	181.2	
12	8	5	5号溝下層	丸瓦か	<2.9>	<3.8>	1.4	13.4	12c 白面に織目 摩滅	213.2	
13	-	-	5号溝下層	不明	<2.0>	<0.8>	<0.7>	1.1	織目	219.4	
14	8	5	5号溝南端下層	不明	<8.4>	<5.4>	1.9	69.3	12c 四面に布目、糸切痕 摩滅	225	
15	-	-	5号溝	不明	<2.3>	<1.9>	<1.5>	8.0	小2片 織目か	213.3	

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			重量 (g)	備考	登録No
					長さ	幅	厚さ			
16	8	5	5号溝	平瓦	<6.6>	<5.9>	2.0	79.6	12c 凸面に系切痕 摩滅	174
17	8	5	5号溝	平瓦	<7.1>	<7.0>	2.8	123.1	12c 四面に系切痕 摩滅	175
18	8	5	1号土坑 主に3・5層	折瓦か 瓦	<3.5>	<3.9>	2.0	12.5	12c 瓦当部か 摩滅	139.2
19	-	-	P29 上層	不明	<1.5>	<1.0>	<0.8>	1.7	小片 繩目	127.2
20	-	-	調査区東南隅 遺物包含層上層か	丸瓦	<4.0>	<3.6>	1.9	24.1	12c 四面に布目 摩滅	118.2
21	-	-	調査区東南隅 遺物包含層上層か	不明	<2.9>	<1.8>	<0.8>	6.9	小2片 繩目	118.4
22	-	-	調査区東南隅 遺物包含層上層か	不明	<2.3>	<1.7>	<0.8>	5.7	小2片	33.2
23	-	-	杭2&3号溝 上層 遺物包含層下層	不明	-	-	-	17.8	小5片	70.2
24	-	-	調査区北西部 遺物包含層下層	不明	<3.9>	<2.3>	<1.7>	14.4	小2片	71.3
25	-	-	調査区西半 遺物包含層下層	不明	<2.8>	<1.5>	<1.6>	10.2	小2片	72.2
26	-	-	調査区西半 遺物包含層	平瓦か	<4.1>	<2.7>	<1.5>	17.2		26.2
27	-	-	調査区西半 遺物包含層下層(地山ブロック入る層)	不明	<2.0>	<1.7>	<1.1>	3.6	小片	35.4
28	-	-	調査区東側 掘立4	不明	<2.4>	<1.8>	<0.7>	5.2	小片	18.4
29	-	-	調査区東半 クリーニング	不明	<2.0>	<1.4>	<0.6>	1.5	小片	110.8

表6 土壁観察表

< > 残存値

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			重量 (g)	ササの有無	備考	登録No
					大きさ	厚さ					
1	-	-	1号溝上層		<0.6~1.1>	-	-	1.7	無	4点	45.3
2	9	5	5号溝南トレンチ 上層		<3.8~4.1>	2.3	-	20.2	有	竹骨痕有 角部か	162
3	-	-	5号溝南トレンチ 上層		<1.4~2.4>	-	-	8.6	有	4点	164.6
4	9	5	5号溝南トレンチ 上層		<3.2~2.2>	2.7	-	13.3	有		161
5	-	-	5号溝		<1.2>	-	-	0.4	無		221.2
6	-	-	5号溝 上面から35cm		<1.6~2.6>	-	-	10.7	有	4点	181.3
7	-	-	5号溝P33南トレンチ		<1.9>	-	-	1.5	有		168.2
8	9	5	5号溝		<5.1~3.6>	<2.9>	-	31.6	有	竹骨痕有	177
9	9	5	5号溝		<5.1~4.2>	2.9	-	43.0	有	竹骨痕有	179
10	-	-	5号溝ベルト 上層		<1.0~2.6>	-	-	8.9	無	4点	205.4
11	-	-	P39北半		<1.3~2.0>	-	-	3.3	無	2点	204.2
12	-	-	調査区東半 遺物包含層		<2.1~2.3>	-	-	3.8	無	2点	119.3
13	-	-	複乱5		<1.9>	-	-	2.0	無		36.7
14	-	-	西北延張部 中層(砂層まで)		<0.8~1.1>	-	-	1.7	無	4点	95.6

表7 近世陶器観察表

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考			登録No
								大きさ	厚さ		
1	-	-	1号溝 上層	磁器	碗か	口縁部	近世	肥前	染付け 小片		45.2
2	-	-	1号溝	磁器	不明	不明	近世	肥前	染付け 小片		53.2
3	-	5	調査区西部 遺物包含層上面	陶器	碗	底部	近世	大崩相馬	難譜		28
4	-	-	5号溝 上面遺物包含層	陶器	碗	口縁部	近世	大崩相馬			185.2
5	-	5	重機	磁器	皿	口縁部	近世	肥前	染付け 明染付け(16c)の可能性もあり		1.6
6	-	5	調査区東半クリーニング	磁器	皿	底部	17.6~18c	肥前	見込みに五弁花印押		110.2

表8 鉄製品観察表

< > 残存値

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	法 量 (cm)			重量 (g)	備考	登録No	
					長さ	幅	厚さ				
1	-	5	1号溝 上層	角釘	<2.1>	0.6	0.6	1.2			45.5
2	9	5	調査区西側2号溝	不明	<3.0>	<2.0>	0.8	4.4	三叉の形状		30.2
3	9	5	5号溝	角釘	<3.5>	0.5	0.5	1.0			222.2
4	-	5	調査区西側ベルト 遺物包含層	不明	<2.2>	<1.3>	0.5	1.8			60.4
5	9	5	調査区東南隅サブトレンチ 5号溝 上面	角釘	<2.0>	0.9	0.7	1.6			131.5

表9 錢貨観察表

< > 残存値

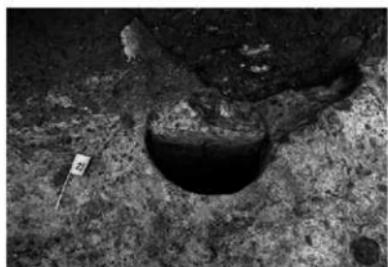
No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	大きさ (cm)	重量 (g)	備考	登録No
1	-	-	3号溝の肩	不明	<2.2>	計測不能	銅の穴銭	80



遺構検出状況（東から）



5号溝検出状況（南から）



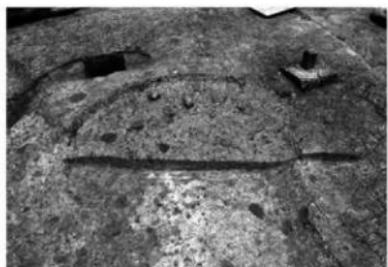
P21断面



P28断面



1号土坑断面（西から）



2号土坑断面（南から）



4号土坑断面（南から）



2号土坑完掘（北から）

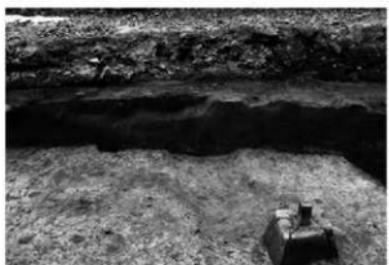
写真図版1



2号溝断面（北から）



3号溝断面（南から）



南壁 2号溝（北から）



南壁 3号溝・6号溝（北から）



1号溝断面（南から）



中央側 4号溝（南から）

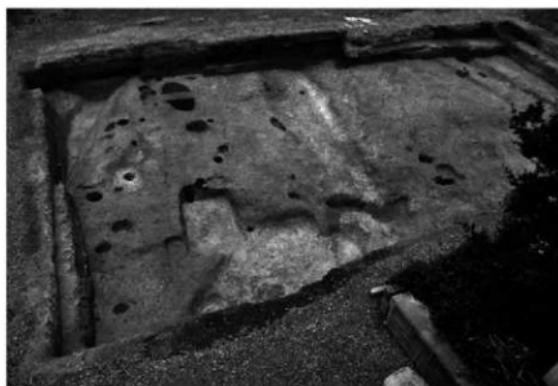


4号溝（西から）



1号土坑・4号溝断面（西から）

写真図版2



調査区全景（北東から）



調査区西侧（南から）



調査区東側（南から）

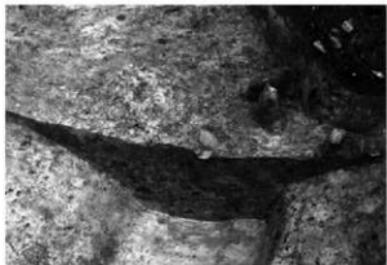
無量光院
48



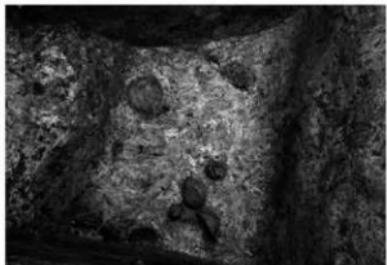
5号溝断面（南から）



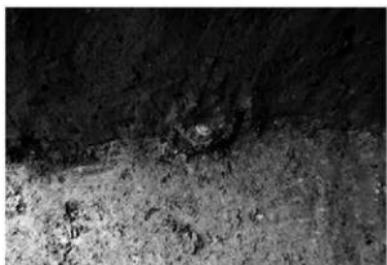
5号溝完掘状況（南西から）



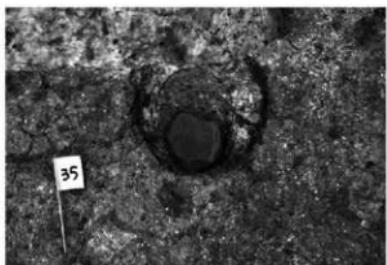
5号溝瓦出土状況（南から）



5号溝かわらけ出土状況（北西から）



錢出土状況



P35かわらけ出土状況



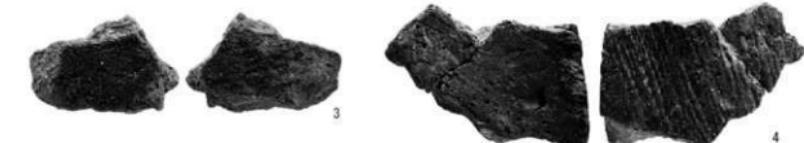
調査区全景東から（奥は無量光院跡土壁）



大日堂跡脇の状況（南東から）

写真図版4

かわらけ



土壁



無量光院48

写真図版5 出土遺物

令和3年度 立会調査履歴表

No	遺跡名	所在地	原 因	所 見
1	伽羅之御所跡	平泉字鈴沢地内	道路敷設工事	支障なし
2	三日町Ⅲ跡	平泉字上野台280-2	駐車場造成	支障なし
3	宿遺跡	平泉字高田前102-4	電柱設置	支障なし
4	高田遺跡	平泉字高田92-2他	事務所新築工事	支障なし
5	造納遺跡	長島字竜ヶ坂160-1他	住宅建築	支障なし
6	鈴沢の池跡	平泉字志羅山137-5	携帯電話基地局建設	支障なし
7	善阿弥遺跡	平泉字善阿弥165-5	カーポート設置工事	支障なし
8	善阿弥遺跡	平泉字善阿弥165-1	カーポート設置工事	支障なし
9	花立遺跡	平泉字花立112-3地先	県道中尊寺線引込設備工事	支障なし
10	無量光院跡	平泉字花立212-3	県道中尊寺線引込設備工事	支障なし
11	金鷲山遺跡	平泉字大沢11-1付近	電柱建替	支障なし
12	伽羅之御所跡	平泉字鈴沢10-3地先	電話柱建替工事	支障なし
13	坂下遺跡	平泉字坂下29-9	喫煙所設置	支障なし
14	衣闌遺跡	平泉字衣闌34-2	喫煙所設置	支障なし
15	毛越Ⅱ遺跡	平泉字大沢61-2	喫煙所設置	支障なし
16	中尊寺跡	平泉字衣闌102	庫裡カーポートの擁壁工事	支障なし
17	猪岡館跡	長島字須崎50	電柱設置工事	支障なし
18	無量光院跡	平泉字花立地内	漏水工事	支障なし
19	紙園Ⅱ遺跡	平泉字紙園地内	電柱設置	支障なし
20	遺跡外	長島字伊勢堂31-1他	ソーラーパネル施設設置	支障なし
21	三日町Ⅲ遺跡	平泉字三日町13-1地先	電話柱設置工事	かわらけ(細片)出土
22	三日町Ⅲ遺跡	平泉字三日町161-1	水田盛土工事	支障なし
23	猪岡館跡	長島字須崎55-1	住宅新築に伴う擁壁設置及び進入路設置	69頁参照
24	特別史跡中尊寺	平泉字衣闌116-5	配水管仕切弁の更新	支障なし
25	宿遺跡	平泉字宿21-3	盛土造成工事	支障なし
26	西光寺跡	平泉字北沢16	崖面崩壊	支障なし
27	猪岡館跡	長島字須崎55-1	住宅新築	69頁参照
28	西光寺跡	平泉字北沢16	階段整備(鐘楼堂南側)	支障なし
29	伽羅之御所遺跡	平泉字泉屋92	支柱設置工事	支障なし
30	伽羅之御所遺跡	平泉字泉屋99-8他	支柱設置工事	支障なし
31	志羅山遺跡	平泉字志羅山40-2	駐車場整備(役場南側)	支障なし
32	志羅山遺跡	平泉字志羅山40-5	珊瑚の建築	支障なし
33	毛越V遺跡	平泉字毛越250番地	住宅の増築(サンルーム設置)	支障なし
34	西光寺跡	平泉字北沢16	支障木除去	支障なし

*住所は岩手県西磐井郡平泉町までを省略し、平泉・長島字から記載した。

猪岡館跡工事立会

1 調査要項

調査地点 平泉町長島字須崎55番1
調査面積 300 m²
調査期間 令和3年8月19日～9月30日
調査原因 住宅建築・造成

2 遺跡の位置と概要

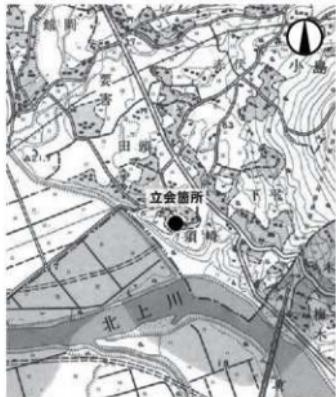
猪岡館跡は『風土記御用書出（安永風土記）』（安永四年（1775）仙台藩）に小島村に残る古館の一つとして記され、中世に当地を支配した猪岡氏の居城と伝えられる。平泉町長島字須崎に所在し須崎館ともいう。立地は北上川左岸の北上高地に属する東稲山系西麓の端部で、標高は約42mである。現状は西側の住宅に隣接する畠で、南から北に向かって緩い下り勾配を示す。工事内容は、敷地北側に①擁壁の設置、中央に②住宅建築、北側の町道からL字形に③進入路の設置である。調査は工事の施工と調整しながら継続的に行なった。

擁壁の設置にあたり、調査区北側の町道沿いを長さ14m、幅12～1.5mの規模で掘削した。擁壁は町道から住宅と進入路の境をまわして南まで延長する。敷地西側の進入路予定地は南に向かう緩い上り勾配となる。調査の結果、擁壁工事で溝状の痕跡、進入路工事で堀跡と柱穴、住宅部分で堀跡の続きと柱穴を検出した。住宅部分の掘削は畠と地山上面を削る程度であったため、遺構は検出のみに留めて実測後に埋め戻した。

3 検出遺構

堀跡

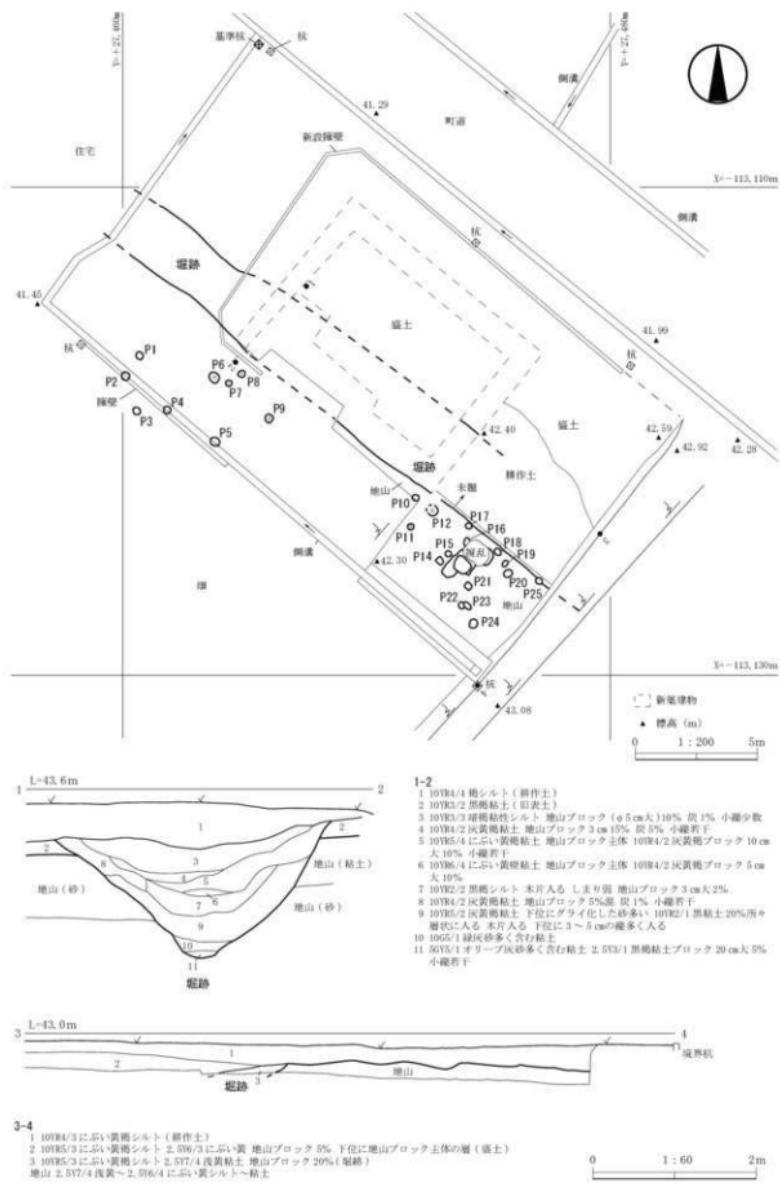
住宅予定地の東端から西側の既存住宅まで東西方向に約22mを検出した。堀跡は西側の進入路部分は完掘し、住宅部分に生じた東壁で土層を観察した。溝幅は開口部で3.40m、断面形はV字から逆台形で深さ1.50mを測る。埋土中層から杭2点、上層から粘土塊1点が出土した。



第1図 調査地点位置図(1/5,000)



写真1 調査前現況（北から）



第2図 平面図・断面図

柱穴

24個検出した（柱穴13は欠番）。直径は23～38cm、深さは9～42cmで埋土はにぶい黄褐シルトや黄褐シルトに地山ブロックが少量混入するものが多い。また、西側では小石を多く含む埋土の柱穴が多い。平面形は1～12・15～20が円もしくは楕円形、柱穴14・21～25は角形である。P 5から鉄製品の破片が出土している。

その他

擁壁部分の掘削は深い箇所で1.3m程度である。敷地北側は、元々は道路の高さにすり付く高さだったが、盛土を2～3度行い現在の高さにしていることが分かった。盛土した畑の厚さは約60cmである。また、近現代の土坑と溝跡を検出している。遺物は遺構外から18世紀の肥前産染付磁器1点と時期不明の粘土塊2点が出土した。



写真2 検出状況（南東から）



写真3 堀跡断面（北西から）

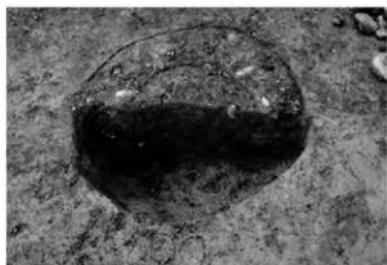


写真4 柱穴断面

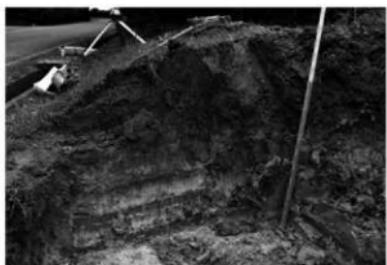


写真5 擁壁部掘削状況（北西から）



写真6 南西部掘削状況（南から）



写真7 工事状況（南東から）

岩手県平泉町文化財調査報告書第144集
平泉遺跡群発掘調査報告書

祇園Ⅱ遺跡第19次 志羅山遺跡第119次
白山社遺跡第11次 毛越寺跡第20次
無量光院跡第48次

印 刷 令和5年3月27日
発 行 令和5年3月30日

編集・発行 平泉町教育委員会
〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2
電話 (0191)46-2111㈹ FAX (0191)46-2015

印 刷 コンカツ印刷有限会社
〒021-0021 一関市中央町一丁目7-16
電話 (0191)48-5963
